

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	関西学院大学
設置者名	学校法人関西学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
神学部	—	夜・通信	22			22	13	
文学部	文化歴史学科	夜・通信						
	総合心理科学科	夜・通信						
	文学言語学科	夜・通信						
社会学部	社会学科	夜・通信						
法学部	法律学科	夜・通信						
	政治学科	夜・通信						
経済学部	—	夜・通信						
商学部	—	夜・通信						
理工学部	物理学科	夜・通信						
	化学科	夜・通信						
	生命科学科	夜・通信						
	情報科学科	夜・通信						
	数理科学科	夜・通信						
	人間システム工学科	夜・通信						

	先進エネルギーナ ノ工学科	夜・通信									
	環境・応用化学科	夜・通信									
	生命医化学科	夜・通信									
総合政策学部	総合政策学科	夜・通信									
	メディア情報学科	夜・通信									
	国際政策学科	夜・通信									
	都市政策学科	夜・通信									
人間福祉学部	社会福祉学科	夜・通信									
	社会起業学科	夜・通信									
	人間科学科	夜・通信									
教育学部	教育学科	夜・通信									
国際学部	国際学科	夜・通信									
理学部	数理科学科	夜・通信									
	物理・宇宙学科	夜・通信									
	化学科	夜・通信									
工学部	物質工学課程	夜・通信									
	電気電子応用 工学課程	夜・通信									
	情報工学課程	夜・通信									
	知能・機械工学 課程	夜・通信									
生命環境学部	生物科学科	夜・通信									
	生命医科学科	夜・通信									
	環境応用化学科	夜・通信									
建築学部	建築学科	夜・通信									
(備考)											

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kwansei.ac.jp/about/disclosure/syugakusien

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	関西学院大学
設置者名	学校法人関西学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://ef.kwansei.ac.jp/disclosure> （学校法人関西学院/情報公開）にて公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員（現職）	2025年5月31日～ 2028年6月定時評 議員会の終結時ま で	組織運営体制への チェック機能
非常勤	国立大学法人役員（現職）	2025年5月31日～ 2028年6月定時評 議員会の終結時ま で	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員（前職）	2025年5月31日～ 2028年6月定時評 議員会の終結時ま で	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員（現職）	2025年5月31日～ 2028年6月定時評 議員会の終結時ま で	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社顧問（現職）	2025年5月31日～ 2028年6月定時評 議員会の終結時ま で	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社顧問（現職）	2025年5月31日～ 2028年6月定時評 議員会の終結時ま で	組織運営体制への チェック機能
非常勤	地方公共団体職員（現職）	2025年5月31日～ 2028年6月定時評 議員会の終結時ま で	組織運営体制への チェック機能
（備考）別添「学校法人関西学院 役員名簿」を参照			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	関西学院大学
設置者名	学校法人関西学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・前年11月頃から授業担当者にシラバス作成を依頼している。依頼に当たり、授業の魅力を分かり易く伝えるための書き方が記載された「シラバス作成の手引き」を全学的に配布している。 ・開講時期に関わらず、すべての科目のシラバスを、開講前年度の3月2日に公開しており、Web上からアクセスすれば、誰でも閲覧することができる。 ・シラバスには、授業形態、授業目的、到達目標、授業の概要・背景、授業方法、成績評価方法、授業計画、授業時間外学習の内容等が含まれており、授業形態、授業目的、到達目標、成績評価方法は日英併記となっている。	
授業計画書の公表方法	シラバス https://syllabus.kwansei.ac.jp/uniasv2/UnSSOLloginControlFree
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ・成績評価項目は、「定期試験」、「定期試験に代わるレポート」、「授業中試験」、「平常レポート」、「論文」、「授業外学修課題」、「プレゼンテーション・発表」、「実技、実験」、「授業への参加度（自発性、積極性、主体性、等）」「その他」から選択式となっており、「その他」を選択した場合は、詳細の記入が必須となっている。また、成績評価項目は入力必須項目となっており、シラバス公開時に必ず設定されている。 ・成績評価方法については、学期開始約1ヶ月以降は追加・修正しないよう教員にアナウンスしており、シラバスの成績評価方法欄は編集できないようロックをかけている。 ・学修成果を厳格かつ適正に評価するために、「成績調査依頼期間」を設けており、学生は成績評価に疑義がある場合、授業担当者に照会することができる。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPA制度を採用し、以下の基準でGPを付与することを学生に公表している。併せて、GPAの算定対象となる科目、履修中止制度についても公表している。GPAは学期ごと、年度ごと、通算で算出され、成績発表時に発表される。 ■GPA算出式 $[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目の評価のGP})] \text{の総和} / (\text{履修登録した単位数}) \text{の総和}$ ■2019年度以降入学生： 100～90点又はS 評価の場合のGPは4.0 89～85点又はA+評価の場合のGPは3.5 84～80点又はA 評価の場合のGPは3.0 79～75点又はB+評価の場合のGPは2.5 74～70点又はB 評価の場合のGPは2.0 69～65点又はC+評価の場合のGPは1.5 64～60点又はC 評価の場合のGPは1.0 59～0点又はF 評価の場合のGPは0 ■2018年度以前入学生： 100～90点又はS評価の場合のGPは4 89～80点又はA評価の場合のGPは3 79～70点又はB評価の場合のGPは2 69～60点又はC評価の場合のGPは1 59～0点又はF評価の場合のGPは0	
客観的な指標の算出方法の公表方法	・履修心得(年度開始前に全学生に配布される冊子) ・大学ポータルサイト(要ログイン)
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ・すべての学生が卒業時に学部の違いなく共通に身に付けるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学の教育に通底するものとして位置づけている。 ・学部ごとの特色に応じたディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を定め、公表している。また、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーを定め、学部の教育目標を達成するための教育課程を編成している。 ・卒業の要件について、各学部の履修心得・教育課程表に記載し、学生に周知している。 ・授業期間および定期試験期間終了後から、成績発表・成績調査依頼期間を経て、卒業発表までのスケジュールについて、各学部の履修心得・大学のポータルサイト等で学生に周知している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	・履修心得（年度開始前に全学生に配布される冊子） ・ホームページ (1)Kwansei コンピテンシー https://www.kwansei.ac.jp/about/kg_competencies (2)ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー https://www.kwansei.ac.jp/about/dca_policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	関西学院大学
設置者名	学校法人関西学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	左記の財務諸表等はすべて「事業報告書」の中にまとめて掲載し、ホームページで公表している。 https://ef.kwansei.ac.jp/disclosure/report
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 神学部
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/philosophy/) (概要) 神学部は、理念を基に、神学研究の発展に努め、また伝道者の育成ならびに広くキリスト教の思想および文化の理解を求めて、キリスト教神学の基礎と専門領域双方において教育を行う。その目標とするところは、人間を自然と社会との関わりにおいて考察し、そこにある問題を探り出し、キリストの福音に照らして今日における生の意味やその規範を模索しつつ、そこで見出したものを他者に伝え、社会に仕える人材を育成することにある。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/diploma_policy/) (概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において神学部のディプロマ・ポリシー (DP) を以下のとおり定める。 1. 神学を学ぶための基礎力を修得している 2. 大学生に相応しい基礎力を修得している 3. 旧約・新約聖書、キリスト教の歴史、教理、実践の基本的知識を修得している 4. キリスト教文化、諸宗教について基本的知識を修得している 5. 大学生に相応しいコミュニケーションができる 6. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者としての知識を修得している 7. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者に相応しい技能をもっている 8. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者に相応しい関心をもっている 9. 旧約・新約聖書、キリスト教の歴史、教理、実践、思想・文化、諸宗教のいずれかについて発展的知識を修得している 10. キリスト教神学についてのレポートあるいは論文を執筆することができる 11. キリスト教を広く様々な問題のなかで捉える関心、問題意識をもっている 12. 神学の領域を超えて汎用的な知識、技能、関心をもっている 13. 現代社会の中でキリスト教に関して専門的知識を基に必要な技能を用いて積極的に考えることができる
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/curriculum_policy/) (概要) ディプロマ・ポリシーに基づいて以下の方針を設定し、カリキュラムを編成しています。 1. 大学生に相応した基礎力の修得(キリスト教教育科目群／言語教育科目群／基礎教育科目群) 2. キリスト教神学を学ぶための基礎的知識、技能、関心の修得(専門基礎科目群) 3. キリスト教伝道者としての基礎力の修得(キリスト教伝道者コース) 4. キリスト教神学に関する発展的知識、技能、関心の修得(専門専攻科目群) 5. "Mastery for Service"を実践するための基礎的・発展的知識、技能の修得 6. 神学の領域を超えて汎用的な知識、技能、関心の修得(自由履修科目群)
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/admission_policy/)

(概要) 神学部では、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などについて専門領域ならびに学際的領域での学びを深め、その精神に基づいて社会に奉仕することができるよう、教育することを目標としています。そこで、高等学校までの基礎的な学習を土台にして、ボランティアや課外活動、あるいは社会人としての経験などから培った多様な能力をもつ者を幅広く受け入れています。そのため、以下の項目を募集方針の要素として、筆記を中心とする一般選抜入学試験と、面接（口頭試問含む）を採り入れた各種入学試験によって、高等学校における基礎学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。 神学部に入학을望む者に期待することは、以下のとおりです。 1. キリスト教の生み出した思想、文化的財などの学際的な領域に興味をもっている 2. キリスト教について幅広く関心をもっている 3. 世界の歴史や日本の歴史について知識がある 4. 日本語、英語について一定水準の能力がある 5. 「倫理」あるいは「数学」あるいは「地理」について知識がある キリスト教伝道者コースに入학을許可される者は、上記 1～5 に加えて、以下のとおりです。 1. 将来クリスチャンワーカーを含めた伝道者となる意志をもっている 2. バプテスマ（洗礼）を受けた者である 3. 聖書、キリスト教について一定量の知識がある 4. 聖書、キリスト教について調べることができる
--

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_humanities/philosophy/) (概要) 人間存在とその営為を、さまざまな方向からの検討を通じて明らかにする専門的能力を涵養するとともに、豊かな人間性を育み現代社会を理解するための幅広い視点と教養の獲得を重視して教育研究を進める。それにより、包括的で幅広い教養と高度で専門的な知識をあわせ持ち、深い洞察力を身につけた人間を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_humanities/diploma_policy/) (概要) 文学部の教育理念と目的に沿って設定された様々な授業科目の中から、各学科・専修の求める専門性に従った履修体系と学生の主体的な関心に基づいて科目を履修し、必要とされる単位数を修得することが学士学位授与の要件となる。特に文学部では学修の集大成として卒業論文の作成が義務づけられている。学士学位の取得にあたって学生に求められるのは、①人文科学の基礎的知識のもとに、人間存在とその営為について主体的に課題を発見し、適切に問題を設定する能力と、幅広い観点から対象を洞察し、合理的に解決する能力を身につけていること、②広範で多様な人文科学の学問領域に触れることを通じて、広い視野と均整のとれた柔軟な思考能力を身につけていること、である。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_humanities/curriculum_policy/)

(概要) 4年間のカリキュラムを通じて、以下のような人材の育成を目指す 1. 基礎・基本を重視した教育を通じて、主体的に課題を設定し、これを解決できる能力を養成するとともに、人文学的素養に立脚した真の知性と品格をそなえた人間の育成を目指す。 2. 広範で多様な学問領域にふれることを通じて、均整のとれた柔軟な思考能力を涵養するとともに、文化全体を見渡す視野と方法を身につけ、創造的に考え自ら行動することのできる能力を養成する。 3. 豊かな人間性と幅広い教養を持ち、よき市民として地域社会や国家はもとより、国際社会においても重要な貢献をなし得る能力を養成する。同様に、よき社会人、職業人として、各界に積極的な貢献をなし得る能力を養成する。 4. 高度専門職及び研究職の養成（大学院教育）を視野に入れながら、その基盤となる強固な学問的知識及び技能の獲得を達成し、学問的な立場から社会に貢献できる能力を養成する
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_humanities/admission_policy/)
(概要) 建学の精神に則ったキリスト教主義教育を土台とする人文学の修得を通じて、全人的陶冶を行う。 文学部は、建学の精神に則ったキリスト教主義教育を土台とする人文学の修得を通じて、全人的陶冶を行うことを教育理念としています。多様な領域にまたがる人文学の教育・研究のために、文学部は文化歴史学科、総合心理科学科、文学言語学科の3学科で構成され、さらに11の専修に区分されていますが、どの専修に所属しても学生それぞれの関心に従って基礎的な科目群から専門的な科目群まで幅広く履修できるよう柔軟なカリキュラムを組んでいます。また最終的な到達目標として卒業論文の作成が必修とされています。4年間の勉学を通して、主体的に学び、自ら問題を見出し追究していく姿勢が重要です。高等学校の学習においても、基本的な科目全般にわたって基礎学力を充実させるとともに、幅広く客観的な視野と、先入観や画一的なものの見方に囚われない柔軟な思考力、さらには自らが興味関心を持ったテーマに対して粘り強く取り組んでいく姿勢を培っておくことが求められます。このような総合的な知的基盤を備え、かつ自らの見出した研究課題に積極的に取り組んでいける資質に富んだ者を、一般入学試験・各種入学試験それぞれの特徴を生かして、本学部の学生として受け入れることを基本方針としています。
学部等名 社会学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_sociology/philosophy/)
(概要) 社会学部は、社会学・メディア学・社会心理学・文化学の学術研究を推進するとともに、学士課程教育を通して、自由で自律的な態度、多様で持続可能な共生社会の実現を目指す意欲、幅広くかつ系統的な学術的知識と批判的思考力、実践的な汎用的技能を身につけ、グローバル化した現代社会で活躍できる人物の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_sociology/diploma_policy/)

(概要) 1. 【態度・関心】 建学の精神にもとづく態度と社会・文化・人間への関心 1. 自らが修得する知識・技能を、自己のみならず社会をよりよくするために用い、それにもとづいて、共生社会の実現に貢献しようとする基本的な態度を身につけている（スクールモットーである“Mastery for Service”の態度）。 2. 現代社会やそこに生きる人間、そして異なる文化に深い関心を持ち、他者との共生について生涯にわたって学び、考え続けていく意欲をもっている。 2. 【知識・思考】 社会学を核とする幅広くかつ系統的な知識と思考力 1. 社会学を核とする学問の系統的で幅広い知識を身につけ、現代社会やそこに生きる人間について考察し、グローバル化に伴う諸課題とその解決に向けた諸実践について理解している。 2. 社会学的な視点と思考力（社会学的想像力）を身につけ、論理的かつ実証的で批判的な思考や判断ができる。 3. 社会調査の実践的な意義を理解し、社会調査についての基本的な知識を身につけている。 3. 【技能・表現】 実践的なジェネリック・スキル（汎用的技能） 1. 生涯にわたって学習するための技能（ICTを用いた情報収集・分析・評価の能力、論理的・批判的な思考能力、数量的スキル、表現・伝達能力など）を身につけている。 2. 日本語および一つ以上の外国語によって、他者の表現を的確に理解（読み・聞き）し、自己の考えをわかりやすく伝達（書き・話す）するためのコミュニケーション・スキルを身につけている。 3. 社会調査についての基礎的な技能を身につけている。 4. 【統合的能力】 総合的学習成果としての課題解決能力 上記1～3の学習成果を総合的に活用して、自ら課題を発見し、その課題を学術的に分析・解決する能力を身につけている。	教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_sociology/curriculum_policy/）
(概要) I 群科目（必修科目） 「キリスト教科目」（キリスト教学 A・B） 建学の精神にもとづく態度を身につける科目（DP-1①） 「言語教育科目（必修）」 諸言語によるコミュニケーション・スキルを身につける科目（DP-3②） 「演習科目」（基礎演習 A・B、研究入門演習、研究演習、卒業研究演習） 「卒業論文」 社会・文化・人間への関心と生涯にわたる学習意欲を養う（DP-1②）とともに、継続的かつ主体的に学習するための汎用的技能を身につけ（DP-3①）、最終的に学士課程教育の集大成として、自ら課題を発見し、その課題を学術的に分析・解決する能力を身につける（DP-4）科目 「リサーチ・メソッド入門科目」（社会調査入門（概論）、社会調査入門（企画）、社会調査入門（集計）） 社会調査の基礎的知識を学び、そのプロセスや意義を理解する能力を身につける科目（DP-2③、DP-3③） II 群科目（クラス登録科目） 「入門科目」（社会学研究入門、メディア学研究入門、社会心理学研究入門、文化学研究入門） 社会学、メディア学、社会心理学、文化学に関する基礎的な知識と基本的な考え方を身につける科目（DP-2①②）	

「リサーチ・メソッド基礎科目」（データ分析（基礎）、質的研究法） 定量・定性的な方法を用いてデータを分析し、社会現象に関する結論を導き、結果を解釈する能力を身につける科目（DP-2③、DP-3③） Ⅲ群科目（選択必修科目） 「リサーチ・メソッド発展科目」（データ分析（応用）、社会調査実習） リサーチ・メソッド入門科目・基礎科目で学んだ知識を基盤に、社会調査を企画・実施する実践的能力と、高度なデータ分析技能を修得し、社会現象を多面的に読み解く能力を身につける科目（DP-2③、DP-3③） 「専攻科目」「専門基礎科目」 社会学・メディア学・社会心理学・文化学を中心に、幅広くかつ系統的な学術的知識を身につける科目（DP-2①②） Ⅳ群（自由選択科目） 学生が各自の必要と興味に応じて自由に履修し、学習成果を補完あるいは拡張するための科目	入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_sociology/admission_policy/） （概要） 社会学部は、学士課程教育で培っていかうとする能力に応じて、以下の条件を満たしている者に広く門戸を開いています。 態度・関心 1. 関西学院大学および社会学部の教育理念・教育内容を理解し、それにもとづいて人間的に成長しようとする意志をもっていること。 2. 社会・文化・人間について、そして現代社会のさまざまな現象や問題について基本的な関心を持ち、社会学・メディア学・社会心理学・文化学を学ぶ意欲と見通しをもっていること。 知識・思考 1. 高等学校で学ぶ基本的学科目について、優れた学力水準にあること。社会学・メディア学・社会心理学・文化学を学ぼううえで、その基礎となる、歴史（日本史・世界史）、地理、政治・経済、現代社会に関する基本的な知識を身につけていること。 2. 論理的かつ実証的な思考や判断の基礎となる、日本語（国語）、数学についても、十分な能力を身につけていること。 技能・表現 1. 自分で情報を集め、自分で考え、それを表現した経験をもっていること。 2. 相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現するために必要な、日本語および英語（あるいは他の外国語）の基礎的な運用能力を身につけていること。 入学試験は、教科・科目に関する筆記試験を行う一般選抜入試と、面接等を取り入れた各種入学試験を行います。アドミッション・ポリシーが求める各要素（「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」）は、それぞれの入学試験において、重み付けを行い評価します。
学部等名 法学部	教育研究上の目的 （公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_law/philosophy/）

(概要) 「ソーシャル・アプローチ」とは、関西学院の初代法文学部長を務めたH. F. ウッズウォース氏の言葉です。 その内容は、次の3点に要約することができます。 1. 日本における法学教育が官僚養成という目的を帯びていたことに対して、民間の自由な精神に基づく教育・研究をめざすこと。 2. 資格試験の準備教育や狭い意味での法解釈学に止まらず、広く深い社会的視野と教養を重視した教育・研究であること。 3. 建学の精神にのっとり、社会への貢献、社会的弱者に目を向けさせる視点を重視した教育・研究であること。 つまり、「民間における自由の精神」、「広く深い社会的視野と教養」、「社会貢献（奉仕）の精神」の3つを示します。 法学部は、キリスト教主義教育とこの「ソーシャル・アプローチ」の理念のもと、良識を基礎に幅広い社会的視野から論理的に物事を考察し、社会現象について深く洞察する力を育み、これをもって Mastery for Service を体現する世界市民を育むことを目的としています。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_law/diploma_policy/)
(概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において関西学院大学法学部のディプロマ・ポリシーを以下のとおり定める。関西学院大学法学部は、本学部設立以来の伝統である市民社会における自由な精神に則り、広く深い社会的視野と教養、及び社会貢献（奉仕）の精神の視点を重視するという「ソーシャル・アプローチ」の理念に基づき、法学・政治学の教育をつうじ社会に広く貢献できる人材を育成することを目的としてディプロマ・ポリシーを定める。所定の年限在学し所定の単位を修得し、下記の知識や能力あるいは技能などを習得したと認められる本学部生に、学士号を授与する。 法律学科 1. 〔関心・意欲〕 法学の視座から市民社会における自由の精神や基本的人権の重要性を理解し、社会に貢献しようとする関心と意欲を有する。 2. 〔知識・理解〕 広い社会的視野と教養を有し、法学の専門的知識を修得している。 3. 〔技能・表現〕 グローバル化する市民生活に不可欠な実践的学習能力とスキルおよびコミュニケーション能力を有する。 4. 〔思考・判断〕 課題発見・解決のための総合的思考力と判断力とともに、法的思考（リーガル・マインド）を身につけている。 政治学科 1. 〔関心・意欲〕 政治学の視座から市民社会における自由の精神や基本的人権の重要性を理解し、社会に貢献しようとする関心と意欲を有する。 2. 〔知識・理解〕 広い社会的視野と教養を有し、政治学の専門的知識を修得している。 3. 〔技能・表現〕 グローバル化する市民生活に不可欠な実践的学習能力とスキルおよびコミュニケーション能力を有する。 4. 〔思考・判断〕 課題発見・解決のための総合的思考力と判断力とともに、市民社会的思考（シヴィック・マインド）を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_law/curriculum_policy/)

(概要) 法学部は、ディプロマ・ポリシーに明記されている人材養成目標を達成するために、下記の重点項目を含むカリキュラムを編成し、これを実施する。 法律学科 1. 市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を主体的に深く理解するとともに、広い学際的、国際的な視野を深めることのできる科目 2. 法律学の専門的知識をコースごとに系統的に修得する科目 3. 複数の言語によるコミュニケーション能力を習得し、多文化理解を促すことを目的とする科目 4. 基礎的な学修技能を修得することのできる科目 5. 以上の科目により習得した知識や能力を活用して課題発見や解決策を考察・討議する、主に少人数での双方向的な演習科目 政治学科 1. 市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を主体的に深く理解するとともに、広い学際的、国際的な視野を深めることのできる科目 2. 政治学の専門的知識をコースごとに系統的に修得する科目 3. 複数の言語によるコミュニケーション能力を習得し、多文化理解を促すことを目的とする科目 4. 基礎的な学修技能を修得することのできる科目 5. 以上の科目により習得した知識や能力を活用して課題発見や解決策を考察・討議する、主に少人数での双方向的な演習科目
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_law/admission_policy/)
(概要) 法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成する 法学部は、ソーシャルアプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学・政治学の研究と教育を通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的としています。この目的を達成するために、 1. 科学的な思考方法の習得 2. 広範な知識と社会的視野の獲得 3. 正しい価値観と豊かな人間性の形成 4. 人権感覚の陶冶 5. 国際的・地球的な視野の確保 という教育目標を定め、①学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価の得られる力の習得、②少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成という実施目標を置いています。 法学部は、こうした目的と目標に十分に応えることのできる学生として、基本とされる教科を着実に学習しているだけでなく、時代や場所を問わず、様々な生起する社会問題や社会現象に幅広く関心の持てる学生を受け入れることを方針としています。こうした方針に基づいてこの要項に掲載している入学試験科目を設定し入学選抜を行います。
学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_economics/philosophy/)
(概要) 経済学部教育の目的は「倫理観と判断力を持った実践力のある人材」の育成である。経済学の専門的知識や現実経済の背景にあるさまざまな文化や伝達手段を身につけることを通じて社会に貢献し、その社会への貢献を通じて自分自身をも磨ける人間を育てる。学生のお大半が民間企業へ就職するという状況の中で、経済学というツールを使って経済現象を的確に捉え分析し新聞の経済記事等を自在に読める人材、企業に求められる経済学と

いう基盤を持った実践力を有した人材の育成を行う。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_economics/diploma_policy/)
(概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、経済学部 DP を以下のとおり定める。 【関心・意欲】 - 世界の様々な地域の人々や文化への共感する力を持っている。 - 他者と協力し、社会に貢献しようという意欲を持っている。 【知識・理解】 - 経済学の基本的な概念と理論的・歴史的な経済学的思考力を身につけている。 - 日本や世界の経済事情、歴史、言語や文化、そして宗教に関する基本的な知識を身につけている。 【技能・表現】 - 基本的な情報処理技術に基づいた、経済データ分析能力を備えている。 - 日本語および1つ以上の外国語の修得に基づいた、コミュニケーション能力を備えている。 【判断・問題解決】 - 経済学的思考力に基づいた、現実の社会や経済の事象についての判断能力を備えている。 - 現実の社会や経済のなかで課題を発見し、解決する能力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_economics/curriculum_policy/)
(概要) 経済学部は、学士（経済学）を授与するにあたり、学生に求める【関心・意欲】、【知識・理解】、【技能・表現】、【判断・問題解決】を育むため、下記のカリキュラムを編成し、これを実施する。 【関心・意欲】 高等学校までの中等教育から大学からの高等教育へ繋ぐ導入教育科目、健康な心身を育み世界の様々な地域の人々や文化を学びそれへの共感を醸成するための言語教育科目を配置する。また、本学のキリスト教主義の礎となるキリスト教科目、基盤・学際科目、および、経済学以外の様々な学問分野の基礎を学ぶ他学部開設専門教育科目から構成される総合教育科目を配置する。 【知識・理解】 日本や世界の経済事情、歴史、言語や文化、そして宗教に関する基本的な知識を身につけるための言語教育科目。また、本学のキリスト教主義の礎となるキリスト教科目、基盤・学際科目、他学部開設専門教育科目を配置する。これらの幅広い基礎学力の上に、経済学の基本的な概念や経済・社会の歴史的視点を理解し、経済学的思考力を身につけるため、基礎、標準、応用へと経済学諸分野を発展的に学び、深めるために体系的に配置された「専門導入科目」「専門基礎科目」「専門科目」を配置し、学生に体系的履修を促すための履修モデルを示す。 【技能・表現】 初年次に学部生全員が履修する少人数の経済学入門、経済学に必要な基礎的な数学、情報処理に関連する科目、母国語・外国語によるコミュニケーション能力を育む言語教育科目を配置し、それらを基盤として、より高度な経済学を段階的に習得すべく、プレ演習、専門演習、卒業研究演習を配置する。 【判断・問題解決】 経済学の専門的知識・理解を相互に関連付け考える力を涵養するための少人数による専門演習、卒業研究演習を配置する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_economics/admission_policy/)

(概要) わが国を含め世界の政治・経済情勢は大きな変化の時代を迎えています。その一つに、貧困や環境の問題などが挙げられますが、その根本には経済問題があるのは言うまでもありません。 今の時代に大学で経済学を学ぶ意義はきわめて大きいと言えます。同時に、社会や世界の多様な文化や考え方の違いを認識することが大切だと言えます。まさに、激動の世界において活躍できる「世界市民」に求められる資質は、経済学の専門知識だけでなく幅の広い多様な知識としっかりとした価値観を持つことです。

学部等名 商学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_ba/philosophy/)
(概要) 高度な専門知識と管理の技法、そしてグローバルに展開する現代経済・社会の理解に不可欠な総合的教養の修得、歴史的洞察力の涵養、言語やIT、企画・提案など幅広い分野にわたるコミュニケーション能力や意思決定能力の高度化を具体的な教育目的として掲げる。 また、理論と実践との関連性を重視したカリキュラムの編成、さらに産業界との密接な連携の中で常に最新かつ高度な情報を提供することにより、ビジネスの第一線で活躍する人材、会計・税務など商学関連分野の専門職者を輩出することを目指している。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_ba/diploma_policy/)
(概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、商学部のディプロマ・ポリシーを以下の通り定める。 商学部は、「隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛える」という内容を示す関西学院のスクールモットー“Mastery for Service (奉仕のための練達)”のもと、次の能力等を有する「真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成 (Fostering Creative Minds for Business)」を教育理念としている。 基本的意識と姿勢 - 知識を修得する意欲と、それを社会への奉仕に生かそうとする意識と積極的な姿勢を有する。 基本的思考と判断 - 現代社会のなかで企業などの経済主体が果たす役割、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理方法とそれらが社会に及ぼす影響、経済主体の社会的責任・倫理の重要性などを体系的に把握・分析・理解する能力を有する。 - 問題を発見し、問題の本質を問い、論理的考察と多面的総合的視点から社会的現象を的確に判断し行動する能力を有する。 知識と技能 - 商学についての基礎知識と専門知識、総合的教養を修得し、高いコミュニケーション能力を有し、多元的社会のなかで機能や文化を異にする他の多くの主体との共生を図ろうとする意識と積極的な姿勢を有する。 このような教育理念に基づき、本学部は、学則に定められた期間在籍し、卒業に必要な単位数を修得した者に、学士（商学）を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_ba/curriculum_policy/)

(概要) 商学部は、キリスト教主義による人間愛の精神を涵養し、一般教養による人格形成を図り、専門知識を身につけ国際化時代・情報化時代である今日の社会に貢献できるビジネスパーソンを養成するため、カリキュラムの編成に当たって、以下①～⑤の5本の柱を立てる。 1. ビジネスパーソンとしての一般教養の修得 専門知識に偏らない一般教養やビジネスの背景的知識を提供する。 2. ビジネスパーソンとしてのミニマム・コンピテンスの修得 ビジネス全般に関する基礎的知識を体系的に提供する。 3. ビジネスパーソンとしての高度な専門知識の修得 ビジネスの各分野におけるスペシャリストとして意思決定能力・分析能力等を養うため、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6コースを設け、各分野の高度な専門的知識を体系的に提供する。 4. ビジネスパーソンとしてのコミュニケーション能力の修得 学生・教員間の学問的・人格的な接触を通じて学習する演習型科目を提供する。 5. ビジネスパーソンとしての外国語能力の修得 外国語をツールとしてビジネスを学習する機会を提供する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_ba/admission_policy/)
(概要) 商学部の教育理念は、“Mastery for Service (奉仕のための練達)” というスクールモットーの精神を踏まえて、営利、非営利を問わず経済活動に関わるすべての主体がおかれている現実と向かうべき方向に対する認識を深めつつ、同時に広範な人間生活や環境との関わりの中で、その役割を見極める能力と主体性をもった人材、すなわち「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン」を育成することにあります。 本学部は、この教育理念に基づき、人間性を向上させる意欲に満ちあふれた、多様な適性と能力を有する学生を受け入れたいと考えています。そのため、筆記試験を中心とする一般選抜と、面接（口頭試問含む）を取り入れた各種入学試験を実施し、高等学校における基礎学力の三要素である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」および「主体性・多様性・協働性」を総合的に評価します。
学部等名 理工学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_ba/philosophy/)
(概要) 1. 自然科学・科学技術の幅広い分野にわたり、基礎的研究を中心におきながら応用も視野に入れ、それぞれの分野が相互に緊密な連携を保ちながら常に先端的でレベルの高い研究を行う。 2. しっかりとした自然科学の基礎知識と能力を身につけ、基礎を応用に繋げていくことが出来る柔軟な思考力を養い、未知の問題を発見していく能力と、その未知の問題に果敢に挑戦し、解決していくことが出来る能力に優れた、創造性に溢れた人材を育成する。 3. 自然科学・科学技術の知識と能力とともに、幅広い教養を養い、キリスト教主義教育で培われた豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育てる。 4. 社会との強い繋がりを絶えず念頭に置き、自然科学を通して社会に大きなインパクトを与え、また、その技術的応用を通して、人類の進歩に寄与することが出来る教育と研究ならびに人材の育成を行う。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/education4/)

(概要) 自然科学の基本原理とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部理念の下、理工学部の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/education4/)
(概要) <数理科学科> 数理科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、基礎科目、コンピュータ科目、発展科目)、専門選択科目にて構成する。 <物理学科> 物理学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は物理系科目(卒業研究科目、コア科目、実験科目、選択科目)、数学系科目、専門選択科目にて構成する。 <先進エネルギーナノ工学科> 先進エネルギーナノ工学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(基礎科目<数学系、物理系、化学系>、実験科目、発展科目、先端科目)、専門選択科目にて構成する。 <化学科> 化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(基礎科目、物理分析化学科目、有機無機化学科目)、専門選択科目にて構成する。 <環境・応用化学科> 環境・応用化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(数学・物理科目、地学・生命・情報科目、基礎科目、発展科目)、専門選択科目にて構成する。 <生命科学科> 生命科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(基礎科目、発展科目、先端科目)、専門選択科目にて構成する。 <生命医化学科> 生命医化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(基礎科目、発展科目、先端科目、生命科学科目)、専門選択科目にて構成する。 <情報科学科> 情報科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(情報科学実習科目、人間システム工学実習・実験科目、基礎科目、発展科目、人間システム工学系科目)、専門選択科目にて構成する。 <人間システム工学科> 人間システム工学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合

教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目（人間システム工学実習・実験科目、情報科学実習科目、基礎科目、発展科目、情報科学系科目）、専門選択科目にて構成する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：)
(概要) ※令和3年度より募集停止

学部等名 総合政策学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_policy/philosophy/) (概要) 総合政策学部は、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」という理念の下で、複雑かつ高度化した現代社会に潜む諸問題を発見し、問題解決及び政策立案能力を持った人材を養成することを目的としている。そのために、総合政策学部はヒューマン・エコロジーを視座とし、政治学、経済学、社会学、経営学、法学、工学、理学、言語、文化、思想といった個別的学問領域を横断的かつ重層的に構造化した教育課程を編成して、「Think Globally. Act Locally.」をモットーとした総合的かつ専門的な教育研究を行う。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_policy/diploma_policy/) (概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において総合政策学部の学位授与方針(DP)を以下のとおり定めます。
総合政策学科 総合政策学部はより良い未来を実現するため、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」の理念を理解し、その実現を通じて、社会の持続的発展に資する人材の育成を目標とします。この目標を実現するための教育として、総合政策学科では、人が生きていく場としての「環境」、維持すべき社会としての「公共」、ならびに思考がよって立つ「言語・文化」に関わる政策に着目します。学生は、関連する様々な課題に対してグローバルな視点から考え、実行可能な対策を立案・実践できる専門力と総合力を備えた人材としての教育を受けます。そして、それぞれの問題意識と将来の夢に従い、本学部での多様な学びと経験を自らの力とし、より良い社会の実現のために、その力を生かしていくことが期待されます。こうしたポリシーにもとづき、学士（総合政策）の学位は、共生の実現と社会の持続的発展に関わる政策の立案、実行に必要な以下にあげる基礎的能力を有する者に授与されます。 「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。 - 自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸

問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。

- フィールドワークをとおして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。
- 政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）。

メディア情報学科

総合政策学部はより良い未来を実現するため、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」の理念を理解し、その実現を通じて、社会の持続的発展に資する人材の育成を目標とします。この目標を実現するための教育として、メディア情報学科では、急速な技術革新のもとで社会を変革しつつある表現手段としての「メディア」に関わる政策に着目します。学生は、関連する様々な課題に対してグローバルな視点から考え、実行可能な対策を立案・実践できる専門力と総合力を備えた人材としての教育を受けます。そして、それぞれの問題意識と将来の夢に従い、本学部での多様な学びと経験を自らの力とし、より良い社会の実現のために、その力を生かしていくことが期待されます。こうしたポリシーにもとづき、学士（総合政策）の学位は、共生の実現と社会の持続的発展に関わる政策の立案、実行に必要な以下にあげる基礎的能力を有する者に授与されます。

- 「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。
- 自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。
- フィールドワークをとおして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。
- 政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）。

都市政策学科

総合政策学部はより良い未来を実現するため、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」の理念を理解し、その実現を通じて、社会の持続的発展に資する人材の育成を目標とします。この目標を実現するための教育として、都市政策学科では、現代社会の危機と可能性を踏まえて、経済・社会活動の場として重要性を増す「都市」に関わる政策に着目します。学生は、関連する様々な課題に対してグローバルな視点から考え、実行可能な対策を立案・実践できる専門力と総合力を備えた人材としての教育を受けます。そして、それぞれの問題意識と将来の夢に従い、本学部での多様な学びと経験を自らの力とし、より良い社会の実現のために、その力を生かしていくことが期待されます。こうしたポリシーにもとづき、学士（総合政策）の学位は、共生の実現と社会の持続的発展に関わる政策の立案、実行に必要な以下にあげる基礎的能力を有する者に授与されます。

- 「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な

態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。

- 自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。
- フィールドワークをとおして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。
- 政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）。

国際政策学科

総合政策学部はより良い未来を実現するため、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」の理念を理解し、その実現を通じて、社会の持続的発展に資する人材の育成を目標とします。この目標を実現するための教育として、国際政策学科では、相互影響と関係性がさらに深まりつつある「国際」社会に関わる政策に着目します。学生は、関連する様々な課題に対してグローバルな視点から考え、実行可能な対策を立案・実践できる専門力と総合力を備えた人材としての教育を受けます。そして、それぞれの問題意識と将来の夢に従い、本学部での多様な学びと経験を自らの力とし、より良い社会の実現のために、その力を生かしていくことが期待されます。こうしたポリシーにもとづき、学士（総合政策）の学位は、共生の実現と社会の持続的発展に関わる政策の立案、実行に必要な以下にあげる基礎的能力を有する者に授与されます。

- 「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。
- 自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。
- フィールドワークをとおして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。
- 政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_policy/curriculum_policy/）

（概要）

総合政策学科

総合政策学科は、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」についての基本的理解を深め、技術的環境の変化とマクロな社会変化に対応できる総合的な視野、問題解決能力、政策立案能力を持つとともに、「Think Globally. Act Locally.」をモットーとして地球規模で自然・文化・社会環境を維持発展させ、国際社会に貢献できる人材を養成します。そのために、「環境政策フィールド」、「公共政策フィールド」、「言語文化政策フィールド」という3つの専攻フィールドを設け、総合的かつ専門的な教育研究を行います。

基本ポリシー

1. 建学の精神の継承と人間性の涵養

学生は、キリスト教の文化・思想に基づく建学の精神を理解し、「仕えられるた

めではなく仕えるために」という理念のもとで個々の人間性を涵養するとともに、世界への広い視野を身につけます。

2. 学びの起点

総合政策学部では、学生が「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」、「Think Globally. Act Locally.」という学部の基本理念を深く理解し、実践する力を養います。

3. 広範で総合的な知識の獲得と政策分析力の形成

総合政策学部は、総合政策に関連する幅広い知識を習得し、多角的視野から社会の問題を俯瞰する力を養うため、学科の枠を越えて履修できる多様な専門科目を提供します。社会科学、人文科学、自然科学に関する知識を広げるとともに、どの専門分野でも必要な、データの科学的活用技術を習得し、各所属学科の目的と興味に応じた専門性と、学際性の両立をめざします。これらをもとに、各分野における政策あるいは計画の分析・立案能力の形成をめざします。

4. 各分野における実務的専門的技術の獲得

総合政策学科は、各分野における必要にして十分な専門科目を開講します。学内での講義や演習科目だけではなく、プロジェクト・ベースド・ラーニングやハンズオンラーニングを意識したフィールドワークも用意して、現場体験を通じた学びの動機付けを行います。また、外部の研究者や実務家等を招聘して、全学部生を対象とする公開講座（学部研究会と呼んでいます）も実施します。さらに専門性を高めるために、さまざまな資格取得が可能なプログラムも提供します。

5. 語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の涵養

学生は、英語や諸外国語で発信される様々な情報を収集、理解するとともに、自らの考えや思いを口頭や文章、映像等での確に伝える実践的な力を習得します。そのために、英語のネイティブスピーカーによる少人数制の英語教育を推進します。留学生は同様の趣旨で、日本語科目を学びます。また、ICTを柔軟に活用した情報収集・分析・発信技術を学び、数理的思考やデータ分析の基本も習得します。これらの成果を大勢の前でプレゼンテーションする機会を学部行事として実施します。

6. 諸分野における課題発見能力と自発的な研究推進およびこれを取りまとめる能力の形成

学生自らが研究課題を発見、遂行、とりまとめる能力を形成するために、ゼミでの少人数教育を基本として、進級論文や卒業論文、卒業制作等の指導を通じてアカデミックスキルの向上をめざします。またその成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力やディスカッションのスキルも磨きます。

メディア情報学科

メディア情報学科は、デジタル・ネットワークを基盤とする豊かな社会を築くため、日々進歩する情報通信技術と情報メディアの本質を理解した上で、それらのあり方についての問題を人間重視の視点から先見性を持って見出します。そこで発見された問題を、フィールド調査や数理的分析などにより考察し、次に問題解決の政策案を作成し、さらにそれらを映像表現を含む多様なメディアを活用したコンテンツとして社会に発信することができる人材を育成します。

基本ポリシー

1. 建学の精神の継承と人間性の涵養

学生は、キリスト教の文化・思想に基づく建学の精神を理解し、「仕えられるためではなく仕えるために」という理念のもとで個々の人間性を涵養するとともに、世界への広い視野を身につけます。

2. 学びの起点

総合政策学部では、学生が「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」、「Think Globally. Act Locally.」という学部の基本理念を深く理解し、実践する力を養います。

3. 広範で総合的な知識の獲得と政策分析力の形成
総合政策学部は、総合政策に関連する幅広い知識を習得し、多角的視野から社会の問題を俯瞰する力を養うため、学科の枠を越えて履修できる多様な専門科目を提供します。社会科学、人文科学、自然科学に関する知識を広げるとともに、どの専門分野でも必要な、データの科学的活用技術を習得し、各所属学科の目的と興味に応じた専門性と、学際性の両立をめざします。これらをもとに、各分野における政策あるいは計画の分析・立案能力の形成をめざします。
4. 各分野における実務的専門的技術の獲得
メディア情報学科は、必要にして十分な専門科目を開講します。学内での講義や演習科目だけではなく、プロジェクト・ベースド・ラーニングやハンズオンラーニングを意識したフィールドワークも用意して、現場体験を通じた学びの動機付けを行います。また、外部の研究者や実務家等を招聘して、全学部生を対象とする公開講座（学部研究会と呼んでいます）も実施します。さらに専門性を高めるために、さまざまな資格取得が可能なプログラムも提供します。
5. 語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の涵養
学生は、英語や諸外国語で発信される様々な情報を収集、理解するとともに、自らの考えや思いを口頭や文章、映像等で的確に伝える実践的な力を習得します。そのために、英語のネイティブスピーカーによる少人数制の英語教育を推進します。留学生は同様の趣旨で、日本語科目を学びます。また、ICTを柔軟に活用した情報収集・分析・発信技術を学び、数理的思考やデータ分析の基本も習得します。これらの成果を大勢の前でプレゼンテーションする機会を学部行事として実施します。
6. 諸分野における課題発見能力と自発的な研究推進およびこれを取りまとめる能力の形成
学生自らが研究課題を発見、遂行、とりまとめる能力を形成するために、ゼミでの少人数教育を基本として、進級論文や卒業論文、卒業制作等の指導を通じてアカデミックスキルの向上をめざします。またその成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力やディスカッションのスキルも磨きます。

都市政策学科

都市政策学科は、地方都市に活力あふれる新たなコミュニティを創造していくための都市政策と都市経営に必要な地方産業の活性化策に関する教育研究を行います。都市政策については行財政に関する基礎知識とデータサイエンススキルを学び、実際の都市経営や地域運営に必要な能力を身につけた人材の育成、また、地方産業活性化の中心となる地方発ベンチャー企業の経営に必要な能力を身につけた人材を育成します。

基本ポリシー

1. 建学の精神の継承と人間性の涵養
学生は、キリスト教の文化・思想に基づく建学の精神を理解し、「仕えられるためではなく仕えるために」という理念のもとで個々の人間性を涵養するとともに、世界への広い視野を身につけます。
2. 学びの起点
総合政策学部では、学生が「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」、「Think Globally. Act Locally.」という学部の基本理念を深く理解し、実践する力を養います。
3. 広範で総合的な知識の獲得と政策分析力の形成
総合政策学部は、総合政策に関連する幅広い知識を習得し、多角的視野から社会の問題を俯瞰する力を養うため、学科の枠を越えて履修できる多様な専門科目を提供します。社会科学、人文科学、自然科学に関する知識を広げるとともに、どの専門分野でも必要な、データの科学的活用技術を習得し、各所属学科の目的と興味に応じた専門性と、学際性の両立をめざします。これらをもとに、各分野における政策あるいは計画の分析・立案能力の形成をめざします。

4. 各分野における実務的専門的技術の獲得
都市政策学科は、必要にして十分な専門科目を開講します。学内での講義や演習科目だけではなく、プロジェクト・ベースド・ラーニングやハンズオンラーニングを意識したフィールドワークも用意して、現場体験を通した学びの動機付けを行います。また、外部の研究者や実務家等を招聘して、全学部生を対象とする公開講座（学部研究会と呼んでいます）も実施します。さらに専門性を高めるために、さまざまな資格取得が可能なプログラムも提供します。
5. 語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の涵養
学生は、英語や諸外国語で発信される様々な情報を収集、理解するとともに、自らの考えや思いを口頭や文章、映像等での確に伝える実践的な力を習得します。そのために、英語のネイティブスピーカーによる少人数制の英語教育を推進します。留学生は同様の趣旨で、日本語科目を学びます。また、ICTを柔軟に活用した情報収集・分析・発信技術を学び、数理的思考やデータ分析の基本も習得します。これらの成果を大勢の前でプレゼンテーションする機会を学部行事として実施します。
6. 諸分野における課題発見能力と自発的な研究推進およびこれを取りまとめる能力の形成
学生自らが研究課題を発見、遂行、とりまとめる能力を形成するために、ゼミでの少人数教育を基本として、進級論文や卒業論文、卒業制作等の指導を通じてアカデミックスキルの向上をめざします。またその成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力やディスカッションのスキルも磨きます。

国際政策学科

国際政策学科は、国連が掲げる平和構築、国際発展と開発、人権の擁護といった国際社会の諸課題に対して、総合的かつ専門的な見地から政策を構想・立案し、実践的な問題解決能力を備えた人材を養成します。そのために、「国際社会における平和構築」、「国際発展と開発」、「国際人権レジームの拡大と擁護」という3つの政策課題に関して理論と実践の双方の視点から総合的かつ専門的な教育研究を行います。

基本ポリシー

1. 建学の精神の継承と人間性の涵養
学生は、キリスト教の文化・思想に基づく建学の精神を理解し、「仕えられるためではなく仕えるために」という理念のもとで個々の人間性を涵養するとともに、世界への広い視野を身につけます。
2. 学びの起点
総合政策学部では、学生が「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」、「Think Globally. Act Locally.」という学部の基本理念を深く理解し、実践する力を養います。
3. 広範で総合的な知識の獲得と政策分析力の形成
総合政策学部は、総合政策に関連する幅広い知識を習得し、多角的視野から社会の問題を俯瞰する力を養うため、学科の枠を越えて履修できる多様な専門科目を提供します。社会科学、人文科学、自然科学に関する知識を広げるとともに、どの専門分野でも必要な、データの科学的活用技術を習得し、各所属学科の目的と興味に応じた専門性と、学際性の両立をめざします。これらをもとに、各分野における政策あるいは計画の分析・立案能力の形成をめざします。
4. 各分野における実務的専門的技術の獲得
国際政策学科は、必要にして十分な専門科目を開講します。学内での講義や演習科目だけではなく、プロジェクト・ベースド・ラーニングやハンズオンラーニングを意識したフィールドワークも用意して、現場体験を通した学びの動機付けを行います。また、外部の研究者や実務家等を招聘して、全学部生を対象とする公開講座（学部研究会と呼んでいます）も実施します。さらに専門性を高めるために、さまざまな資格取得が可能なプログラムも提供します。

5. 語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の涵養 学生は、英語や諸外国語で発信される様々な情報を収集、理解するとともに、自らの考えや思いを口頭や文章、映像等での確に伝える実践的な力を習得します。そのために、英語のネイティブスピーカーによる少人数制の英語教育を推進します。留学生は同様の趣旨で、日本語科目を学びます。また、ICTを柔軟に活用した情報収集・分析・発信技術を学び、数理的思考やデータ分析の基本も習得します。これらの成果を大勢の前でプレゼンテーションする機会を学部行事として実施します。 6. 諸分野における課題発見能力と自発的な研究推進およびこれを取りまとめる能力の形成 学生自らが研究課題を発見、遂行、とりまとめる能力を形成するために、ゼミでの少人数教育を基本として、進級論文や卒業論文、卒業制作等の指導を通じてアカデミックスキルの向上をめざします。またその成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力やディスカッションのスキルも磨きます。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_policy/admission_policy/)
(概要) 本学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提としつつ、資質の異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に刺激しあい学びあう教育研究環境の場を整えます。入学に必要な基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、入学後の教育に対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれます。また学生の資質としては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもって多様な人々と協働し学ぶことができることが求められます。学生は入学後、入学前の基礎的知識のうえに本学部の理念である共生への理解を深め、各自が関心をもつ専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探究することが期待されます。以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

学部等名 人間福祉学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/philosophy/)
(概要) 教育課程は、上のような設立理念を実践できる専門家として、あるいは一市民として貢献していく人材の養成のために、豊かな「人への思いやり (compassion)」の涵養、柔軟で包括的な「幅広い視野 (comprehensiveness)」の育成、そして様々な社会福祉学的あるいは健康科学的な課題に対してソリューションを導き出す「高度な問題解決能力 (competence)」を育むことを意図して組み立てられている。本学の教育課程におけるキーワードは、「人間」と「社会」とその「交互作用」、そして「3つのC」、ということになる。本学部は、「社会福祉学科」、「社会起業学科」及び「人間科学科」からなり、それぞれの学科の特色に合わせた学科専門教育を提供している。 社会福祉学科 「関学社会福祉」の伝統を生かし、ソーシャルワーク・マインドを持って地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成する。子ども、高齢者、障害を持つ人々への支援をはじめ、幅広い社会福祉領域を網羅する科目を配し、「理論」と「実践」を両輪で学ぶことで現場に生きる知識と技術を修得できるよう、実践的なカリキュラムを整備している。 社会起業学科 国際化や多様化が進む現代社会では、グローバルな基準で有効な知識や実践力を身につけることが不可欠になる。社会起業という観点で地域社会や国際社会における「人間の福祉」

に貢献するための発想力や、柔軟で不屈の実践力を習得できるように、フィールドワークなどの実践的なカリキュラムが準備されており、「社会貢献のための現実に即した学び」が可能となっている。

人間科学科

人間科学科では「こころ」と「身体」の両面から人間を深く理解することを目指す。死生学・スピリチュアリティを中心とした学問分野、身体運動科学・身体パフォーマンスを中心とした学問分野の2領域から統合的に学習する。スポーツ指導・支援者をはじめ身体や心を病む人や悲しみに寄り添えるものとして、人に関わり支援できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/diploma_policy/)

(概要)

Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、人間福祉学部の DP を以下のとおり定めています。

社会福祉学科

1. 大学生にふさわしい基礎力を身につけている
2. 人間と社会とその相互作用に関する基本的知識を身につけている
3. 人間の生活課題を共感的に理解し、幅広い視野から実践的な解決法を考えることができる
4. 社会福祉学科の学生は、社会福祉学に関する専門的知識を身につけ、社会福祉課題の解決に関与し貢献できる

社会起業学科

1. 大学生にふさわしい基礎力を身につけている
2. 人間と社会とその相互作用に関する基本的知識を身につけている
3. 人間の生活課題を共感的に理解し、幅広い視野から実践的な解決法を考えることができる
4. 社会起業学科の学生は、社会起業に関する専門的知識を身につけ、グローバルな市民社会の建設に関与し貢献できる

人間科学科

1. 大学生にふさわしい基礎力を身につけている
2. 人間と社会とその相互作用に関する基本的知識を身につけている
3. 人間の生活課題を共感的に理解し、幅広い視野から実践的な解決法を考えることができる
4. 人間科学科の学生は、人間科学に関する専門的知識を身につけ、質の高い生活と社会の実現に貢献できる

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/curriculum_policy/)

(概要)

ディプロマ・ポリシーにもとづいて以下の方針を設定し、カリキュラムを編成しています。

社会福祉学科

1. 大学生にふさわしい基礎力の修得（キリスト教教育科目／言語教育科目／教養教育科目）
 - (1) キリスト教に関する基礎的知識と社会貢献の態度を身につけている
 - (2) 人間と社会に関する教養を身につけている
 - (3) 英語で情報を収集し、個人や社会に向けて発信することができる
 - (4) 外国語または日本手話に関する基礎的知識を身につけ、基本的なコミュニケーションができる
 - (5) 多様な文化に関心をもち、それを理解する態度を身につけている
 - (6) ワープロ、表計算、プレゼンテーション用 PC ソフトを用いることができる
 - (7) 文献、統計、資料などの検索と読解のための基礎力を身につけている
 - (8) レポートを書き、プレゼンテーションをすることができる

(9) ディスカッションに参加し、自分の意見を述べることができる

2. 社会福祉学に関する専門的知識・技能・態度の修得（社会福祉学科専門教育科目）

- (1) 人間と社会とその相互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている
- (2) 日本および世界の社会福祉の歴史と理念を理解している
- (3) 日本の社会福祉および社会保障制度の概要を理解している
- (4) ソーシャルワークの理論と実践について、基本的な知識、技能及び態度を身につけている
- (5) 専門ソーシャルワークの理論と実践について発展的な知識、技能及び態度を身につけている
- (6) ソーシャルワークに関連する専門分野について基礎的知識を身につけている
- (7) 社会福祉およびソーシャルワークの視点で生活課題および心理社会的現象をとらえ、関連領域の視点も活用しながら実践方法を考えることができる

3. 学科の研究課題に関する研究実施能力の修得（研究演習・卒業研究）

- (1) 学科の研究課題に関して、資料を収集し、実験、測定、調査、実践を行い、分析する能力を身につけている
- (2) 学科の研究課題に関して、レポートまたは論文が書ける

4. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得（自由選択科目）

- (1) 総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目の中から自己の専門性と関連する科目を見つけて自ら学びを計画できる
- (2) 総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目を活用して自分の専門性を発展させることができる

社会起業学科

1. 大学生にふさわしい基礎力の修得（キリスト教教育科目／言語教育科目／教養教育科目）

- (1) キリスト教に関する基礎的知識と社会貢献の態度を身につけている
- (2) 人間と社会に関する教養を身につけている
- (3) 英語で情報を収集し、個人や社会に向けて発信することができる
- (4) 外国語または日本手話に関する基礎的知識を身につけ、基本的なコミュニケーションができる
- (5) 多様な文化に関心をもち、それを理解する態度を身につけている
- (6) ワープロ、表計算、プレゼンテーション用PCソフトを用いることができる
- (7) 文献、統計、資料などの検索と読解のための基礎力を身につけている
- (8) レポートを書き、プレゼンテーションをすることができる
- (9) ディスカッションに参加し、自分の意見を述べることができる

2. 社会起業に関する専門的知識・技能・態度の修得（社会起業学科専門教育科目）

- (1) 人間と社会とその相互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている
- (2) 多様な社会的課題に対する理解と認識を身につけている
- (3) グローバルな視点を身につけている
- (4) 社会的課題に対するさまざまな取り組みに関する知識と方法について理解している
- (5) 社会起業の理念に関する基本的知識を理解している
- (6) 社会起業の基本的概念を理解している
- (7) 社会起業の実践のための専門的な知識、技法、経験及び態度を身につけている
- (8) 社会起業に関連する専門分野についての基礎的知識を身につけている

(9) 社会起業に関する情報の収集と活用に必要な知識、技法、経験を身につけている。

3. 学科の研究課題に関する研究実施能力の修得（研究演習・卒業研究）

(1) 学科の研究課題に関して、資料を収集し、実験、測定、調査、実践を行い、分析する能力を身につけている

(2) 学科の研究課題に関して、レポートまたは論文が書ける

4. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得（自由選択科目）

(1) 総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目の中から自己の専門性と関連する科目を見つけて自ら学びを計画できる

(2) 総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目を活用して自分の専門性を発展させることができる

人間科学科

1. 大学生にふさわしい基礎力の修得（キリスト教教育科目／言語教育科目／教養教育科目）

(1) キリスト教に関する基礎的知識と社会貢献の態度を身につけている

(2) 人間と社会に関する教養を身につけている

(3) 英語で情報を収集し、個人や社会に向けて発信することができる

(4) 外国語または日本手話に関する基礎的知識を身につけ、基本的なコミュニケーションができる

(5) 多様な文化に関心をもち、それを理解する態度を身につけている

(6) ワープロ、表計算、プレゼンテーション用PCソフトを用いることができる

(7) 文献、統計、資料などの検索と読解のための基礎力を身につけている

(8) レポートを書き、プレゼンテーションをすることができる

(9) ディスカッションに参加し、自分の意見を述べるすることができる

2. 人間科学に関する専門的知識・技能・態度の修得（人間科学科専門教育科目）

(1) 人間と社会とその交互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている

(2) 「こころ（スピリチュアリティ）と身体」の両面から人間を理解する態度とそのための専門的知識を身につけている

(3) 人間のライフコースの各段階（乳・幼児、少年期、青年期、成人期、壮年期、高齢期）における課題や理論について「こころ（スピリチュアリティ）と身体」の両面から理解している

(4) 人間の生き方やいのちについて、広い視野から理解している

(5) こころ（スピリチュアリティ）についての専門的知識と援助技術を身につけている

(6) 身体に関わる科学的専門知識と技術を身につけている

3. 学科の研究課題に関する研究実施能力の修得（研究演習・卒業研究）

(1) 学科の研究課題に関して、資料を収集し、実験、測定、調査、実践を行い、分析する能力を身につけている

(2) 学科の研究課題に関して、レポートまたは論文が書ける

4. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得（自由選択科目）

(1) 総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目の中から自己の専門性と関連する科目を見つけて自ら学びを計画できる

(2) 総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目を活用して自分の専門性を発展させることができる

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/admission_policy/)
(概要) 人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指します。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり (Compassion)」、「幅広い視野 (Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力 (Competence)」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。 一般選抜入試ではこの理念や教育プログラムにふさわしい生徒を確保するために、「高校において基本とするような科目全体について一定の学力を持っているか、特に言語的能力があり理解力や論述力に優れているか、あるいは特に数理的な能力に優れているか」との観点から試験を実施します。 なお、本学部の入学にあたって、社会福祉学科は、「社会福祉にかかわる分野での職業選択を希望しているかその分野に理解がある」ことが、社会起業学科は、「社会起業に関心があり、国内外での社会貢献活動をめざしているかそのような分野に理解がある」ことが、人間科学科は、「死生学・生命倫理学・悲嘆学などのところ (スピリチュアリティ) に関する学問に関心があるか、身体 (スポーツ・健康) に関連する分野に関心があり、それぞれの分野での職業選択を希望しているかそれらの分野に理解がある」ことが求められます。

学部等名 教育学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_education/philosophy/)
(概要) 「子ども理解」を教育研究の中核に据え、めざすべき「人を育てる人」の資質をより具体的に、「実践力」「教育力」「人間力」の三語で表し、これらを三位一体で形成することを学士課程上の目的とする。 「実践力」とは、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校をはじめ、一般社会も含めた幅広い保育・教育現場で、強い情熱、子どもと響きあえる身体性、一人ひとり異なる子どもへの愛情、優れた指導力を持って、保育・教育を実践できる資質である。 「教育力」とは、「教える専門家」になるために常に「学びの専門家」として研鑽を積み、学問的専門性を背景としてその分野の「知の意味」を様々な事象との連関において理解し、それを子どもたち一人ひとりに「おしえる (愛をしふ)」ことができる資質である。 「人間力」とは、国際的、歴史的な視野の広さ、状況の文脈を読み取る「思慮深さ」、人権意識、しなやかな批判精神、(異文化交流を含む) 豊かなコミュニケーション能力、そしてこれらの教養に基づいた総合的な判断力を持ち、それを具体的な行為につなげることができる資質である。 この3つの力を身につけることは、既存の教育現場に単に適応するというだけではなく、現場をより創造性豊かな環境にするための能力を培うことを意味しているが、これは、本学院のミッションステートメントにある「思いやりと高潔さをもった社会の変革」を志向するものでもある。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_education/diploma_policy/)
(概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、教育学部の DP を以下のとおり定める。 関心・意欲・態度 1. 人の「弱さ」への深い自覚とともに、人生から問われて生きようとする「強さ」を身につけ、価値が不確実な状況下にあっても、他者と協働してよりよい人間関係や社会を創造するための基本的な態度を身につけている。 2. 国際的、歴史的な視野の獲得と世界市民の自覚、そして Mastery for Service を体現する奉仕的なリーダーシップをもった「人を育てる人」として成長することに関

心や意欲をもっている。

思考・判断

1. 幅広い教養に基づいた多角的な視点と臨機応変な判断力をもっている。
2. 専門的な知識(knowledge)や智慧(wisdom)を修得し、さらには他者との学び合いから思考をよりしなやかに、深く、発展させることができる。
3. 一人ひとりの〈いのち〉の尊厳と人権意識とをもって行動することができる。

技能・表現

1. 「子どもと共にある状況」からの呼びかけを聴きとり、課題を発見し、積極的に応答していく「感性(センス)」と「技(わざ)」を磨いている。
2. 常に自らが「知」の探究者でありつつ、「知」を子どもたちに媒介できる表現や技能を磨くとともに、学びが困難な状況におかれた子どもたちを理解し、支援することができる。
3. 日本語や外国語を用いて他者と円滑にコミュニケーションできる力を身に付けている。

知識・理解

1. 子ども一人ひとりの〈いのち〉が唯一無二の贈与であることに深く思いをいたしながら、大人との関係性において常に生成している乳幼児・児童・生徒・障がいのある子どもを全人的に理解している。
2. 乳幼児教育・学校教育・社会の幅広い教育活動や実践を理解し、「思いやりと高潔さをもった社会変革」への道筋を自分なりに展望することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_education/curriculum_policy/)

(概要)

教育学部は、学部教育目標を達成するために学位授与の方針(DP)に基づいた科目群を系統的に配置している。専門教育科目には、教員免許・保育士資格取得のために、免許・資格取得に必要な科目を配置している。

1. 総合教育科目

キリスト教主義と国際性を標榜する関西学院大学教育学部生として、人として生きる構え(「人間力」「実践力」の基礎)と外国語力の基礎(「人間力」「教育力」の基礎)を学ぶための共通科目群である。

キリスト教科目

建学の精神の前提となるキリスト教についての概括的な理解を与え、また、宗教性を背景とする人間とその広範な営みとしての文化の在り方についての深い洞察力をもたせるための科目

言語教育科目

外国語によるコミュニケーション能力を育成するための科目

2. 専門教育科目

理論と実践を往還する「教育学」という学問分野の多様な学びを通じて、教員を養成することを主たる目的とした本学部の専門教育科目群。その内容を「共通専門教育科目」「教育学コア科目」「教育内容探究科目」「特別支援教育科目」「教育実践科目」に分類し、まず、学部としての共通の学びとコースの専門性に根差した学びを通じて子ども(人間)と教育を理解するための基盤を形成し、そこから学生自身が主体的により翼を広げて、発展的に教科の教育内容を探究することに、また特別支援教育の専門性を身につけることに挑戦できるようにカリキュラムを編成している。「子ども理解」を中核に「実践力」「教育力」「人間力」の調和的獲得とコースごとの専門性の形成を目的としている。

A 共通専門教育科目

共通に学ぶべき専門科目群として「演習科目」「国際共生科目」を設け、教育学の基礎にしっかりと根差し視野を深めつつ、最終的には「卒業研究」の完成を目指して4年間を通じたゼミ活動で「主体的・対話的で深い学び」を実践し、自ら情報を整理し、主体的に

考え、協働的に探究し、表現する力を身につけることを目的としている。とりわけ、関西学院大学の教育学部生として国際化時代の共生と教育の在り方に展望を持てるような視野の広さを培う。主として「教育力」「人間力」の育成に貢献する。

演習科目

大学での学びと教育学の学びへの導入を行い、ゼミ活動を通じて、教育を自ら問いながら学ぶ主体的な学びを実践し、「卒業研究」へと収斂させることでその学びの証を立てる科目

国際共生科目

本学部の理念に掲げている、地球的視野に立ちながら、教育を担うことに人としての使命を自覚した世界市民を育成することを促すための科目

B 教育学コア科目

教員免許取得のために法令上必修に位置づけられた科目を多く含む「教育学基礎科目」は、理論と実践の両方の要素を含んでおり、教育学の基礎的な学びを踏まえ、コースの目的に応じてより発展した学びへと展開できるようにコア科目を配置している。「子ども理解」を中核に、「実践力」「教育力」「人間力」を総合的に深め、発展させることを目的とした本学部の根幹に位置している。

教育学基礎科目

教員免許取得のために法令上必要な教育の基礎的理解に関する科目等のうち全学校種に共通して必要な科目

幼児教育学コア科目

幼稚園教員免許および保育士資格取得に必要な科目

初等教育学コア科目

小学校教員免許取得に必要な科目

教育科学コア科目

教育科学の諸領域について多角的に学ぶための科目

C 教育内容探究科目

中学校・高等学校の教職課程における教科専門として、「英語科特修科目」と「社会科特修科目」を設けている。「教育学コア科目」の学びを土台として、教科内容の専門性を深めていくことを可能にしている。

英語科特修科目

中学校（英語）・高等学校（英語）の教員免許取得に必要な科目

社会科特修科目

中学校（社会）・高等学校（地理歴史・公民）の教員免許取得に必要な科目

D 特別支援教育科目

特別支援学校教員免許取得に必要な科目

E 教育実践科目

各種教員免許・保育士資格取得に必要な実習科目、ならびに学部が独自に開設している教育実践科目

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_education/admission_policy/）

（概要）

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志をもつ者を受け入れることを基本方針としています。具体的には、以下のような者を受け入れます。

- 人間・社会に対する幅広い関心を持ち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。
- 高等教育に相応しい学力を持ち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。
- 多様な価値観への理解・共感を持ち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待で

きる者。 ● 関西学院のスクール・モットーである「Mastery for Service (奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲をもつ者。 以上を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重みづけを行い、評価しています。

学部等名 国際学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_is/philosophy/) (概要) 本学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力)と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_is/diploma_policy/) (概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、国際学部のディプロマ・ポリシーを以下の通り定める。 国際学部は、関西学院大学学則に定める本学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を達成するため、教育課程(カリキュラム)を編成・実施している。これに基づき、本学部は、学生が所定の期間在学し、教育課程上の所定の科目を修得することで、学生自身が身につけた次のような学士力を評価し、学士(国際学)の学位を授与する。 1. 国際事情に関する課題の理解力と分析力 世界の諸地域を人文・社会科学の様々な観点から理解し、分析できる。 2. 問題発見解決能力 主体的に問題を発見し、適切な方法に基づいて問題を解決できる。 3. 異文化理解・多文化共生能力 異文化に対する感受性をもち、多様な文化と共生できる。 4. 倫理的価値観 キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて「倫理的価値観」を体得している。 5. 言語コミュニケーション能力 外国語能力を生かし、積極的に発信できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_is/curriculum_policy/) (概要) 国際学部は、関西学院大学学則に定める本学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を達成するため、教育課程(カリキュラム)の編成方針を以下のように定める。本学部の教育課程における科目区分は、キリスト教科目、言語教育科目、教養基礎科目、専門基礎科目、地域研究科目、研究演習科目、領域関連科目、自由履修科目とする。教養基礎科目は、入門的科目を第1類、基礎的科目を第2類、基礎演習科目を第3類とする。地域研究科目は、グローバル研究科目群、北米研究科目群、アジア研究科目群、ヨーロッパ研究科目群とする。 本学部の学生は、英語、そして日本にとって物的・人的交流が盛んな主要地域で使用されている中国語・朝鮮語を第1外国語として集中的に修得する。また、世界における様々な地域には、異なった文化、言語、社会、ガバナンス、経済、経営などが存在する。本学部における「国際事情に関する課題の理解と分析」という教育・研究上の目的は、学生が各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から学際的に理解し、分析できるように

なることである。そのため、専門科目を大きく3つの領域（文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営）に分け、国際社会、国際事情に関する幅広い知識の習得を行う。

異文化理解と自国文化の理解は互いに不可欠である。そのため、本学部では日本の文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営などに関する諸科目も開講することで、自国文化の歴史的・同時代的考察を促す。加えて、英語の運用能力を高めるため、また外国人留学生に対応するため、英語で行う授業科目を、各科目区分に配置する。

1. キリスト教科目、宗教、哲学・思想、人権などに関する科目を提供し、キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて「倫理的価値観」を養う。
2. 4年間を通じてひとつの外国語を重点的に学ぶことができるカリキュラムを用意し、他の言語の学習機会も広く提供し、「言語コミュニケーション能力」を養う。また、教養基礎科目、専門基礎科目、地域研究科目に英語で行う授業科目を配置する。
3. 海外留学によって、「異文化理解・多文化共生能力」および「言語コミュニケーション能力」を養う。
海外留学としては、短期留学(約1ヶ月)、中期留学(3ヶ月～半年)、長期留学(半年～1年)の他、関連する留学プログラムを位置づける。
4. 全専任教員は、原則として各自の研究専門領域科目とともに研究演習科目を担当し、文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営領域の学際的学習と、少人数教育を通じて、「問題発見解決能力」を養う。
5. 文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の各分野に関する基礎的な科目と国際的な科目を提供し、世界の諸地域を人文・社会科学の様々な観点から理解し分析できるようにし、「国際事情に関する課題の理解力と分析力」を養う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_is/admission_policy/)

(概要)

本学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」（世界理解、国際理解のための能力）と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度（特に人文・社会科学の観点）から理解し、分析できるようになることである。

このような教育・研究上の理念・目的を持った本学部では、以下のようなアドミッション・ポリシーを示して学生を迎え入れる。

1. 人文・社会科学の多岐にわたる領域について幅広い関心と、一定の学力と論理的思考力を持ち、総合的な観点からそれらの課題に取り組もうとする意欲を持つ者
2. 主体的な関心に応じて、みずからの問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲を持つ者
3. グローバル化する社会の中で他者の想念や異文化に対する感性や、自己のありかたに相対的・反省的視点を持つことが期待される者
4. 関西学院に対して強い帰属意識を持ち、スクール・モットーである「Mastery for Service（奉仕のための練達）」という精神を体現しようとする意欲を持つ者
5. 海外生活経験を持つ生徒、留学生等、多様なバックグラウンドを有する者
6. 優れた外国語能力や、特定の分野において優れた学力・能力を持ち、入学後にそれを活かした教育成果が期待できる者

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それ

それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

学部等名 理学部

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_science/philosophy/)

(概要)

数学、物理学（宇宙物理学を含む）、化学の各分野における基礎と専門の知識及び他者を理解し自ら発信する総合的なコミュニケーション能力、現代社会の抱える多様な課題の問題点を的確に見抜く能力を有し、自らの専門的な知識を生かすことにより従前には解決し得なかった課題の解決へと至る人材を養成することで社会に貢献すること。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_science/diploma_policy/)

(概要)

数理科学科

数理科学科は、自然科学ならびに科学技術のあらゆる分野に重要な役割を果たす数学に関して、理論と応用の両面から教育と研究を行い、柔軟で論理的かつ創造的な思考能力を備えた人材を養成する。よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（理学）」の学位を授与する。

1. **【関心・意欲・態度】 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢**
 - (1) 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
 - (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。
2. **【知識・理解】 幅広い知識と深い専門性**
 - (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
 - (2) 数理科学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
 - (3) 数理科学分野における基礎的な技能を修得している。
 - (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
 - (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。
3. **【技能・表現】 実践的な学習技能とコミュニケーション力**
 - (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
 - (2) 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。
4. **【思考・判断】 課題解決のための総合的思考・判断力**
 - (1) 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。

物理・宇宙学科

物理・宇宙学科は、科学技術の基礎である物理学を基盤として、物理や宇宙の未解決問題や本質的なイノベーションの創出に挑戦するチャレンジ精神と創造性を有する人材を育成する。よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（理学）」の学位を授与する。

1. **【関心・意欲・態度】 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢**
 - (1) 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
 - (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。
2. **【知識・理解】 幅広い知識と深い専門性**

(1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 (2) 物理学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。 (3) 物理学分野における基礎的な技能を修得している。 (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。 (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的發展がもつ意義を理解している。 3. 【技能・表現】実践的な学習技能とコミュニケーション力 (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。 (2) 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。 4. 【思考・判断】課題解決のための総合的思考・判断力 (1) 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。 化学科 化学科は、物質が示す多様な性質を原子・分子レベルから理解し、それらがもつ可能性の開拓と物質の創成・生産によって、化学を基盤とする科学技術の進展と人類の生活の向上に貢献できる人材を養成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（理学）」の学位を授与する。 1. 【関心・意欲・態度】自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 (1) 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。 2. 【知識・理解】幅広い知識と深い専門性 (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 (2) 化学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。 (3) 化学分野における基礎的な技能を修得している。 (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。 (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的發展がもつ意義を理解している。 3. 【技能・表現】実践的な学習技能とコミュニケーション力 (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。 (2) 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。 4. 【思考・判断】課題解決のための総合的思考・判断力 (1) 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。	教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_science/curriculum_policy/) (概要) 【総合教育科目】 (3 学科共通) 「キリスト教科目」 初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性等の基本的な態度を身につけさせる。 「英語教育科目」 自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発
--	---

信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

数理科学科

理学部数理科学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（理学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。

本学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、基礎科目、コンピュータ科目、発展科目、専門選択科目にて構成する。

【専門教育科目】

「必修科目」

数理科学科の学びの基盤となる科目から演習科目まで、本学科の学生全員が履修すべき科目を1年次、3年次及び4年次に体系的に配当し修得させる。

「基礎科目」

1年次～3年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「コンピュータ科目」

1年次～3年次に配当し、各専攻分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を演習を通じて修得させる。

「発展科目」

4年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

物理・宇宙学科

理学部物理・宇宙学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（理学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。

本学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は物理系科目、数学系科目、専門選択科目にて構成する。

【専門教育科目】

「物理系科目」

卒業研究に関連する科目（卒業研究科目）、各専攻分野において核となる基礎的な科目（コア科目）、実験演習科目及び専門知識を深める科目（選択科目）を体系的に配置し、必要な知識や技能を修得させる。

「数学系科目」

主に数学に関する基礎知識や基礎的な技能及びそれらを応用するための知識や技能を講義を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

化学科

理学部化学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（理学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。

本学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、基礎科目、物理分析化学科目、有機無機化学科目、専門選択科目にて構成する。

【専門教育科目】

「必修科目」

実験科目を1年次～3年次に、卒業研究に関する科目を4年次に配当し、本学科の全ての学生が身につけるべき知識と技能を体系的に修得させる。 「基礎科目」 主に1年次と2年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。 「物理分析化学科目」 2年次と3年次に配当し、物理化学と分析化学における基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義を通じて修得させる。 「有機無機化学科目」 主に2年次と3年次に配当し、有機化学と無機化学における基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義を通じて修得させる。 「専門選択科目」 専門分野の応用となる科目、専攻分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_science/admission_policy/) (概要) 数理科学科 数理科学科は、現代社会で必要とされる数学理論に関する柔軟で論理的かつ創造的な思考能力を有し、それらを積極的に現代社会の様々な問題に適用し解決することのできる人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。 よって、次のような入学者を求める。 1. 理学部及び数理科学科の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生 2. 理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 3. 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 4. 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 物理・宇宙学科 物理・宇宙学科は、古典物理学から量子力学・相対性理論等の現代物理学までの物理法則を理解するとともに、ミクロな物質からマクロな天体までの物理現象の実験・観測・理論を用いた研究体験を通して涵養された論理的思考能力と専門性を有する人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。 よって、次のような入学者を求める。 1. 理学部及び物理・宇宙学科の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生 2. 理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 3. 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 4. 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 化学科 化学科は、基礎化学と無機分析化学、有機化学、物理化学を中心とした多面的なカリキュラムと卒業研究を通じ、新物質の創成や未解明現象の解明に資する化学の基礎を体系的に身につけ、多様な課題を解決できる能力と新しい科学技術を創出できる能力を有する人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。

よって、次のような入学者を求める。 1. 理学部及び化学科の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生 2. 理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 3. 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 4. 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生
--

学部等名 工学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_engineering/philosophy/) (概要) 物質科学、電気電子工学、情報科学、人間・機械系の各専攻分野の基礎に根ざした深い知識と、それを複雑化・多様化する社会における課題解決に応用する能力を備えた学生を養成するとともに、現代社会が抱える諸問題の解決に結びつく研究成果を挙げることをもって、社会に貢献すること。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_engineering/diploma_policy/) (概要) 物質工学課程 物質工学課程は、原子、分子から固体までの多様なスケールにおける物質科学の基礎となる数学・物理学・化学を身につけた上で、物質工学課程のカリキュラムを通してグリーンイノベーションで必須の3つの分野、すなわち、「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」に関わる深い専門性と応用力、さらには、超スマート社会におけるグリーンイノベーションに関する知識や他領域を含む幅広い知識を身につけ、持続可能な社会の実現に向けた課題に新たな視点から取り組むことのできる人材を養成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（工学）」の学位を授与する。 1. 【関心・意欲・態度】 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 1. 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 2. 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。 2. 【知識・理解】 幅広い知識と深い専門性 1. 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 2. 電気電子応用工学課程における基礎知識を体系的・構造的に理解している。 3. 電気電子応用工学課程における基礎的な技能を修得している。 4. 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。 5. 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。 3. 【技能・表現】 実践的な学習技能とコミュニケーション力 1. 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。 2. 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。 4. 【思考・判断】 課題解決のための総合的思考・判断力 1. 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。

情報工学課程

情報工学課程は、情報技術に関する専門知識とプログラミングの能力を有し、IoT や AI、ヒューマンインタフェース、感性工学等、最先端の情報技術を修得し、さらにその上に他領域を含む幅広い知識と深い思考力を身につけた人材を養成する。

よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

1. 〔関心・意欲・態度〕 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

1. を律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
2. 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。

2. 〔知識・理解〕 幅広い知識と深い専門性

1. 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
2. 情報工学課程の分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
3. 情報工学課程の分野における基礎的な技能を修得している。
4. 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
5. 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。

3. 〔技能・表現〕 実践的な学習技能とコミュニケーション力

1. 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
2. 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. 〔思考・判断〕 課題解決のための総合的思考・判断力

1. 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。

知能・機械工学課程

知能・機械工学課程は、機械工学と人工知能のいずれを学ぶ際にもその土台となる数学的な素養を備えた上に、機械系力学や制御工学、ロボティクス等の機械工学に関する専門知識と、センシングや機械学習、データサイエンス等の人工知能に関わる専門知識の両方を修得し、さらにその上に他領域を含む幅広い知識と深い思考力を身につけることで、これからの社会に求められる高度で多彩な機械化・知能化技術を開発できるとともに、それを通じて新たな産業の創出にも貢献できるような創造性豊かな人材を養成する。

よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

1. 〔関心・意欲・態度〕 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

1. 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
2. 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。

2. 〔知識・理解〕 幅広い知識と深い専門性

1. 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
2. 知能・機械工学課程の分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している
3. 知能・機械工学課程の分野における基礎的な技能を修得している。
4. 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
5. 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。

3. 〔技能・表現〕 実践的な学習技能とコミュニケーション力

1. 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
2. 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. 〔思考・判断〕課題解決のための総合的思考・判断力 1. 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_engineering/curriculum_policy/)
(概要) 総合教育科目（4 課程共通） ● キリスト教科目 初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性等の基本的な態度を身につけさせる。 ● 英語教育科目 自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。 ● 総合選択科目 社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。 物質工学課程 物質工学課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（工学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。本課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、基礎科目〈数学系、物理系、化学系〉、実験科目、発展科目、先端科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。各科目群については物質工学課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に沿う形で以下の方針をもって実施する。 専門教育科目 ● 必修科目 本課程に必須となる基礎知識を1年次に、後述の「基礎科目」「実験科目」で修得した基礎的な知識・技術を基に卒業研究の自立的推進能力を養う科目を3年次に修得させる。卒業研究に関わる科目を4年次に配当し、「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」の各分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連においてもつ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。 ● 基礎科目 「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」の各分野において必須の数学系、物理系、化学系の基礎知識を、講義等を通じて修得させる。 ● 実験科目 「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」の各分野において必要となる基礎的な技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験を通じて修得させる。 ● 発展科目 基礎知識や基礎的な技能を応用するために必要なコンピュータ活用や基礎科目で学修した科目の発展的内容、実践的な知識について講義等を通じて修得させる。 ● 先端科目 3年次に配当し、本課程の学生が基礎知識や基礎的な技能の理解を深め、「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」の各分野の特定の目的に対して応用するための高度な知識について講義を通じて修得させる。 ● 専門選択科目 「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」について、掘り下げた内容の知識と視野を養

成し、各分野の伸展となる知識を修得させる。

- **他領域科目**

特定の分野に閉じこもらず、多彩な知識と視野を身につけさせるため、自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、高度に多様化する科学技術やグローバル化する社会に対応できる知識・能力を修得させる。

電気電子応用工学課程

電気電子応用工学課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（工学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。本課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は、必修科目、基礎科目、実験科目、発展科目、先端科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で述べたように、電気電子応用工学課程は、我が国のグリーンイノベーションに資する人材育成をめざす。理工学部時代から培ってきた物性物理学・電子工学の教育研究を異分野融合・連携の形で新課程に展開し、今後迎える新しいエネルギー社会に貢献し得る人材を輩出することを目的とする。

カリキュラムの基本的な考え方としては、省電力パワーエレクトロニクスを支える、素材・デバイス分野と回路・システム分野の2つの分野に関わる学術を、モビリティの電動化等、具体的な応用先を想定して、基礎から応用まで幅広く学ばせる。各授業科目は、1つの分野に偏ることなく、また、それぞれの分野の関係性を意識して、構成・配置されている。さらに、これらの講義科目に加えて、「電気電子ものづくり実験」、そして電気電子工学の基盤となる計測技術に関わる「電気電子計測実験」等の実験科目を開講し、省電力パワーエレクトロニクスの要素技術を体験的に受講できるようにする。

工学のための理学をよりよく理解し、実社会からの要請に対応できる基礎力を身につけるだけでなく、身につけた基礎力を発展させ、新しい素材・プロセス・デバイス・システムを創造できるような、複数分野にまたがる、あるいは境界分野で活躍できる研究者・技術者を育成する。

専門教育科目

- **必修科目**

本課程に必須となる基礎知識を1年次に、卒業研究の自立的推進能力を養う科目を3年次に修得させる。卒業研究に関わる科目を4年次に配当し、素材・デバイス分野、回路・システム分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連においてもつ意味を理解させた上で、取組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

- **基礎科目**

素材・デバイス分野、回路・システム分野における数学、物理学等の基礎知識を講義等を通じて修得させる。

- **実験科目**

素材・デバイス分野、回路・システム分野において必要となる基礎的な技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験を通じて修得させる。

- **発展科目**

基礎知識や基礎的な技能を応用するために必要なコンピュータ活用や基礎科目で学修した科目の発展的内容、実践的な知識について講義等を通じて修得させる。

- **先端科目**

3年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能の理解を深め、省電力パワーエレクトロニクスの分野の特定の目的に対して応用するための知識について講義を通じて修得させる。

- **専門選択科目**

素材・デバイス分野、回路・システム分野の自然科学の基礎や「ものづくり」技術の共通基盤等についての知識と視野を養成し、各分野の伸展となる知識を修得させ

る。

- **他領域科目**

特定の分野に閉じこもらず、多彩な知識と視野を身につけさせるため、自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、高度に多様化する科学技術やグローバル化する社会に対応できる知識・能力を修得させる。

情報工学課程

情報工学課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（工学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。本課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、情報工学実習科目、知能・機械工学実習・実験科目、基礎科目、発展科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。各科目群については情報工学課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に沿う形で以下の方針をもって実施する。

専門教育科目

- **必修科目**

本課程に必須となる基礎的な知識と技能を講義と演習、実験・実習を通じて修得させる。卒業研究に関連する科目を4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連においてもつ意味を理解させた上で、取組むための課題を発見させ、これまでに培った知識、技能、コミュニケーション力を用いて課題解決に向けて意欲的に取組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

- **情報工学実習科目**

情報工学における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実習を通じて修得させる。

- **知能・機械工学実習・実験科目**

人間・機械系分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・実習を通じて修得させる。

- **基礎科目**

主に1年次、2年次に配当し、情報科学分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

- **発展科目**

2年次、3年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義を通じて修得させる。

- **専門選択科目**

人間・機械系分野における基礎知識や基礎的な技能を修得させ、知識と技能を伸展させる。

- **他領域科目**

特定の分野に閉じこもらず、多彩な知識と視野を身につけさせるため、自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、高度に多様化する科学技術やグローバル化する社会に対応できる知識・能力を修得させる。

知能・機械工学課程

知能・機械工学課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（工学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。本課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、知能・機械工学実習・実験科目、情報工学実習科目、基礎科目、発展科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。各科目群については知能・機械工学課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に沿う形で以下の方針をもって実施する。

専門教育科目

- **必修科目**

機械工学と人工知能のいずれを学ぶ上でもその土台となる数学的素養、機械工学と

人工知能それぞれの専門分野に関する基礎的な知識・技能、近年の情報化社会の基盤技術として各種の機械システムとも関連を深めつつある情報技術の中核となるプログラミングの基本的な技能の3つを、講義と演習、実験・実習を通じて体系的に修得させる。専門的知識・技能の修得を終えた4年次に、学んだ知識・技能を用いた課題解決型の演習等を実施することにより、自らのもつ知識・技能を応用するための柔軟な思考力を養成するとともに、これからの社会において機械工学や人工知能の学問的・技術的発展がもつ意義についても考えさせ、それらを通じて人類の進歩に貢献しようとする意欲を喚起する。

- **知能・機械工学実習・実験科目**

人間・機械系分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・実習を通じて修得させる。

- **情報工学実習科目**

情報科学分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実習を通じて修得させる。

- **基礎科目**

必修科目と同様、機械工学と人工知能両方の土台となる数学、機械工学と人工知能の両分野、それらと関わり深い情報工学の3つについて、それぞれに関する専門的な知識を、対応する科目の講義等を通じてさらに充実させる。

- **発展科目**

機械工学や人工知能に関するより発展的な内容の専門知識を、講義を通じて体系的に修得させるとともに、これまでに学んだ専門知識や技能を応用するための知識も併せて身につけさせる。

- **専門選択科目**

情報技術に関する基礎知識及びより発展的な内容の専門的知識を、対応する講義等を通じて身につけさせるとともに、それらの情報技術を基盤とする近年の情報化社会において、機械工学や人工知能の技術を応用するための知識も併せて身につけさせる。

- **他領域科目**

特定の分野に閉じこもらず、多彩な知識と視野を身につけさせるため、自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、高度に多様化する科学技術やグローバル化する社会に対応できる知識を修得させる。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_engineering/admission_policy/)

(概要)

物質工学課程

物質工学課程では、「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」の3つの分野に関連づけられる物質工学において、基礎に必要な数学系・物理系・化学系科目の知識を身につけた上で、課程制を活用して、電磁気学や固体電子論等の電気電子工学分野の知識や他領域科目を含む幅広い知識を身につけることで物質創製、物性評価、機能付与、デバイス応用等の応用力を修得させ、物質工学の分野における課題に対して新たな視点から取組み、持続可能な社会実現に貢献できる人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。以上の人材養成の目的に沿って、物質工学課程では次のような入学者を求める。

1. 工学部及び物質工学課程の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自立的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生
2. 理数系科目の十分な学力を有し、物質工学に関わる専門的知識を中心にしつつ、極端な専門性に偏らず、幅広い自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
3. 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生

4. 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

電気電子応用工学課程

電気電子応用工学課程では自然現象に対する好奇心と科学技術に対する探究心を有し、電気エネルギーに関わる新しい課題に挑戦する意欲と情熱を有する人材を育成しようとしている。また、幅広い知識と深い専門性に加えて、柔軟な思考力を有する人材の育成を目標としている。以上の人材養成の目的に沿って、電気電子応用工学課程では次のような学生を求める。

1. 工学部及び電気電子応用工学課程の目的及び養成する人物像に賛同し、電気エネルギーに関連した問題に強い関心を示し、本学の教育研究環境を積極的に活用して主体的に学び、近い将来、省電力パワーエレクトロニクスの分野で創造的役割を果たす人材へと成長していこうとする意志をもった学生
2. 関西学院のスクールモットーである“Mastery for Service”への共感と、本課程における学びに対する強い関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲をもった学生
3. 与えられた問題に対して、自分が有する知識を総合化して解を導く能力、あるいは導こうとして考え抜く力を有する学生
4. 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

情報工学課程

情報工学課程は、情報技術に関する専門知識とプログラミングの能力を有し、IoT や AI、ヒューマンインタフェース、感性工学等、最先端の情報技術及び幅広い知識を修得した人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。以上の人材養成の目的に沿って、情報工学課程では次のような学生を求める。

1. 工学部及び情報工学課程の目的及び養成する人物像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生
2. 理数系科目の十分な学力を有し、情報工学に関わる専門的知識を中心に、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
3. 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生
4. 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

知能・機械工学課程

知能・機械工学課程は、機械工学と人工知能の両方の分野にわたる知識と技能を身につけ、それらに基づいてこれからの社会に求められる高度に知的な機械システムの創出や、それらを活用した新たな産業の創出に貢献できる創造性に富んだ人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。以上の人材養成の目的に沿って、知能・機械工学課程では次のような学生を求める。

1. 工学部及び知能・機械工学課程の目的及び養成する人材像に賛同し、機械工学・人工知能技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生
2. 理数系科目の十分な学力を有し、機械工学・人工知能技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
3. 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生
4. 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

学部等名 生命環境学部

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_bes/philosophy/)

(概要) 自然科学の基礎知識と生命科学分野、環境化学分野の専門知識を修得し、関連した科学技術の発展に資する課題解決力と高い倫理観、及びグローバル化に対応できる能力を備えた人材を養成することで、社会に貢献する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_bes/diploma_policy/)
(概要) 生物科学科 生物科学科は、生物学、数理科学、化学を基盤とし、生物機能の活用者としてグローバルに活躍できる思考力を備えた人材、また、新産業分野として創出が加速される生物科学関連のデータサイエンス産業に対応できる専門性の高い人材を育成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（理学）」の学位を授与する。 【関心・意欲・態度】 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 (1) 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする意欲をもっている。 【知識・理解】 幅広い知識と深い専門性 (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 (2) 生物学、数理科学、化学における基礎知識を体系的・構造的に理解している。 (3) 生命科学分野における基礎的な技能を修得している。 (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。 (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。 【技能・表現】 実践的な学習技能とコミュニケーション力 (1) 生命科学関連のデータサイエンス産業に対応し、コンピュータを活用したデータ分析力を有し、生命科学の研究から生成されるデータを解析できる能力を身につけている。 (2) 生物機能を分子レベルで理解し、その理解に基づいて応用するための論理的思考力、情報収集力、表現力を身につけている。 (3) 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。 【思考・判断】 課題解決のための総合的思考・判断力 (1) 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。 (2) 生物機能の活用者としてグローバルに活躍できる思考力・判断力を備えている。 生命医科学科 生命医科学科は、数学、物理学、化学等を基盤として生命科学を修得し、生命に対する健全な倫理観と専門知識をもって、基礎医学・薬学・医工学分野に応用できるように基礎医学系分野と医学系情報学分野の研究を推進することができる人材を育成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（生命医科学）」の学位を授与する。 【関心・意欲・態度】 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 (1) 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする意欲をもっている。

2. **【知識・理解】幅広い知識と深い専門性**
 - (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
 - (2) 生物学、物理化学、数理科学における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
 - (3) 生命医科学分野における基礎的な技能を修得している。
 - (4) 基礎知識や基礎的な技能を基礎医学・薬学・医工学分野に応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
 - (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。
3. **【技能・表現】実践的な学習技能とコミュニケーション力**
 - (1) ヒトの健康に関わる医学、薬学、医工学系産業に対応し、コンピュータを活用したデータ分析力を有し、生命医科学研究から生成されるデータを解析できる能力を身につけている。
 - (2) 生命現象を分子レベルで理解し、その知識を応用するための論理的思考力、情報収集力、表現力を身につけている。
 - (3) 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。
4. **【思考・判断】課題解決のための総合的思考・判断力**
 - (1) 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。
 - (2) 基礎医学的な視点から、ライフイノベーションに貢献し、グローバルに活躍できる思考力・判断力を備えている。

環境応用化学科

環境低負荷型の持続可能な社会の実現のために、地球環境にやさしい合成法や機能性材料の開発に関する知識や技術を身につけ、化学的な視点からグリーンイノベーションに資する人材を育成する。

よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

1. **【関心・意欲・態度】自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢**
 - (1) 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
 - (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする意欲をもっている。
2. **【知識・理解】幅広い知識と深い専門性**
 - (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
 - (2) 環境応用化学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
 - (3) 環境応用化学分野における基礎的な技能を修得している。
 - (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
 - (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。
3. **【技能・表現】実践的な学習技能とコミュニケーション力**
 - (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
 - (2) ミクロな視点、マクロな視点の両面から地球環境問題に取り組む能力を身につけている。
 - (3) 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。
4. **【思考・判断】課題解決のための総合的思考・判断力**
 - (1) 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。

(2) 化学的な視点からグリーンイノベーションに貢献し、グローバルに活躍できる思考力・判断力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_bes/curriculum_policy/)
(概要) 〔総合教育科目〕 (3 学科共通) 「キリスト教科目」 初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性等の基本的な態度を身につけさせる。 「英語教育科目」 自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。 「総合選択科目」 社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。 生物科学科 本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、学士（理学）を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。 〔専門教育科目〕 「必修科目」 生物科学科の学びの基盤となる科目から卒業研究に関連する科目まで、本学科の学生全員が履修すべき科目を1年次～4年次に体系的に配当し修得させる。 「基礎科目」 1年次に配当し、生物科学分野に共通する基礎的な知識を、講義等を通じて修得させる。 「専門Ⅰ群科目」 主に2年次に配当し、生物科学分野に共通する発展的な知識を、講義等を通じて修得させる。 「専門Ⅱ群科目」 3年次に配当し、植物昆虫科学分野、応用微生物学分野及び計算生物学分野に要求される基礎的な知識や技能、またそれらを応用するための能力を、講義等を通じて修得させる。 「専門選択科目」 専門的な視野を広げるため、主に生物科学分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い知識や技能を、講義等を通じて修得させる。 生命医科学科 本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、学士（生命医科学）を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。 〔専門教育科目〕 「必修科目」 生命医科学科の学びの基盤となる科目、生命医科学科の学生全員が身につけるべき知識と技能を修得するための科目を1年次～3年次に体系的に配当する。 「基礎科目」 主に1年次に配当し、生物学、数学、物理学、化学等の生命医科学科に共通する基礎的な知識を講義等を通じて修得させる。 「専門Ⅰ群科目」 主に2年次に配当し、生命医科学分野の基礎的な知識や技能を講義等を通じて修得させる。 「専門Ⅱ群科目」 3年次及び4年次に配当し、生命医科学分野の高度な専門知識や技能、それらを応用するための能力を講義等を通じて修得させる。 「専門選択科目」 専門的な視野を広げるために、生命医科学分野以外の自然科学・科学技術等について、幅

広い知識や技能を講義等を通じて修得させる。

環境応用化学科

本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、学士（工学）を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。

【専門教育科目】

「必修科目」

環境応用化学科の学びの基盤となる科目から卒業研究に関連する科目まで、本学科の学生全員が履修すべき科目を1年次～4年次に体系的に配当し修得させる。

「基礎科目（数学・物理系）」

1年次、2年次に配当し、環境応用化学分野において必要となる数学・物理系の基礎的な知識を、講義を通じて修得させる。

「基礎科目（地学・生命・情報系）」

1年次、2年次に配当し、環境応用化学分野において必要となる地学、生命科学、情報科学の基礎的な知識を、講義等を通じて修得させる。

「専門Ⅰ群科目」

2年次に配当し、各領域における基礎的な知識を、講義を通じて修得させる。

「専門Ⅱ群科目」

主に3年次に配当し、各領域における基礎的な知識や基礎的な技能を応用するための知識を、講義を通じて修得させる。

「専門選択科目」

専門的な視野を広げるため、主に環境応用化学分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い知識や技能を、講義等を通じて修得させる。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_bes/admission_policy/）

（概要）

生物科学科

生物科学科は、生物機能の活用を通じて再生・共生型社会の構築に貢献するため、生物学を基礎として生命のしくみを理解するとともに、生命を分子レベルで分析・評価するための知識や技術を身につけ、高い倫理観をもってグローバルに活躍できる人材の育成をめざしている。そのため、生物科学ばかりでなく、数学、物理学、化学の基礎を確実に身につけさせ、知識の土台作りを行った後、幅広い知識と深い専門性の修得のため専門教育科目を教育する。また、国際社会でコミュニケーションを図るために必要不可欠な英語力の向上のため、英語教育にも力を入れる。以上の人材養成の目的に沿って、生物科学科では以下のような学生を求める。

1. 生物科学科の各専攻分野と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、各専攻分野の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする学生
2. 生物学に加え、数学、物理学、化学の体系的・構造的な理解に基づき、各専攻についての知識や技能を多角的な視点をもって修得しようとする学生
3. 自然科学に関する基礎知識や技能、また日本語及び英語の基礎学力を基に、コミュニケーション能力、論理的思考力、情報収集力、表現力の向上に努める学生
4. 各専攻分野において現代社会における課題を見出し、健全な倫理観をもって課題を解決する能力を身につけようとする学生

生命医科学科

生命医科学科は、生命科学の確固たる知識に加え、基礎医学、薬学、医工学分野やデータサイエンスに関連した知識を兼ね備え、健全な倫理観をもってヒトの健康に関わる基礎医学系分野で活躍し、ライフイノベーションに資する人材を育成することを使命としている。生命科学を基礎医学系分野に応用するためには、まず生命科学の知識を確実に修得した上で基礎医学系分野の知識も兼ね備えている必要がある。生命科学の確実な知識を修得するためには、その基礎となる数学や物理学、化学をはじめとする基礎科目の知識を身につけ

ている必要がある。また、医工学や医学系情報学分野の知識も養い、実験系分野で得られた成果を基礎医学系分野に効率的に応用できる人材の養成をめざす。さらに、ヒトの健康維持や疾病の治療に関わる分野で活躍する人材は、生命に関する健全な倫理観をもっている必要がある。以上の人材養成の目的に沿って、生命医科学科では以下のような学生を求める。

1. 生命科学を生命医科学科の各専攻分野に応用し、ヒトの健康の維持や疾病の治療等、ライフイノベーションに貢献しようとする学生
2. 数学や物理学、化学等、基礎科目も含め、生命科学及び各専攻分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
3. 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点と生命に関する健全な倫理観を意欲的に身につけようとする学生
4. 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

環境応用化学科

環境応用化学科は、地球環境問題に関連する多様な課題に化学的な視点から柔軟に取り組み、国際的に活躍できる人材を養成することを使命としている。そのため、自然科学の基礎を身につけて知識の土台作りを行った後、幅広い知識と深い専門性を修得できる教育研究の実践が必要である。特に、原子・分子レベルから地球スケールまでの広範な対象を取扱う環境応用化学分野の理解には、化学ばかりでなく数学、物理学、地学等の基礎知識の修得も必要となる。以上の人材養成の目的に沿って、環境応用化学科では以下のような学生を求める。

1. 物質と人間生活や地球環境との関わりに幅広い関心を抱き、化学的な視点からグリーンイノベーションに代表される地球環境問題の解決に貢献しようとする学生
2. 自然科学の基礎学力を十分に有し、地球環境化学・応用化学分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
3. 修得した専門的知識・技能を応用に発展させる柔軟な思考力と知識を養い、新しい課題に取り組むことのできる能力と、成果を発信するコミュニケーション能力の修得に努めようとする学生
4. 科学技術と地球環境との調和を重視した高い倫理観をもった学生

学部等名 建築学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_architecture/philosophy/)
(概要) 魅力的で持続可能な建築や都市空間をつくるための計画・デザイン手法及びそれらを運営・管理するためのマネジメント手法の教育を通じて、建築学から現代社会における諸問題を解決する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_architecture/diploma_policy/)
(概要) 建築学科 建築学科は、安全・快適で美しい建築及び都市空間の計画、設計、運営等に関する専門的知識と技術を有して、グローバルな視点で建築と都市の未来を創造する国際的人材を養成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（工学）」の学位を授与する。
1. 工学的知識と技術をベースにして、魅力的で持続可能な建築や都市空間をつくるための計画・デザイン技術及びそれらを運営・管理するためのマネジメント知識。 2. 建築空間、都市空間そして地域社会を連続的・一体的なものとして捉え、相互の関係性について深く理解し提案できる能力。 3. 語学力、コミュニケーション力はもとより日本やアジアの建築及び都市の特徴や文化について誇りをもって解説できる能力。

4. 最先端の建築技術やデザインはもとより地域性や歴史的な文脈を踏まえて、人文科学・社会科学等、幅広い側面から取り組むことができる能力。 5. 人々の安全や財産に深く関わり、ともに公共財としての側面をもつ建築に、専門家としての高度な倫理観をもって携わることができる能力。 6. 建築や都市デザインは多様な専門家及び住民との共同作業であることを理解し、一連のプロセスにおいて謙虚さと協調性を尊重しながらリーダーシップを発揮できる能力。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_architecture/curriculum_policy/)
(概要) 建築学科 安全・快適で美しい建築及び都市空間の計画、設計、運営等に関する専門的知識と技術を有して、グローバルな視点で建築と都市の未来を創造する国際的人材を養成するため、総合教育科目と専門教育科目から構成される教育課程を通して、建築・都市デザイン分野の知識・技能を体系的に修得できるようにする。 具体的なカリキュラムの編成方針は以下のとおりである。 総合教育科目 1. 本学の建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性等の基本的な態度を身につけさせる。 2. 英語のリーディング・ライティング・コミュニケーション能力を高める充実した英語教育を実施する。 3. 建築や都市デザインに必要な人文科学、社会科学分野の科目及び英語以外の多様な外国語を充実させることにより、総合的な知の形成を図る。 専門教育科目 1. 基礎的な表現から高度な建築設計に至るまでのデザイン能力を向上させる、1年次から4年次までの一貫した建築設計教育プログラムを構築する。 2. 建築空間と都市空間そして地域社会を連続的・一体的に捉え、相互の関係について深く理解し計画できる能力を育成するため、建築関連科目に加えて都市・地域関連科目を充実させ、両者を体系的に配置する。 3. 社会の具体的な課題に対して、建築や都市デザイン、まちづくりを通じた改善や解決の手法を学べるよう、多様なフィールドを体験できる PBL 型の授業を充実させる。 4. 建築の専門的職能に必須の一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格に対応した専門科目をバランスよく配置し、資格取得に向けた専門科目を1年次から開講する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_bes/admission_policy/)
(概要) 生物科学科 生物科学科は、生物機能の活用を通じて再生・共生型社会の構築に貢献するため、生物学を基礎として生命のしくみを理解するとともに、生命を分子レベルで分析・評価するための知識や技術を身につけ、高い倫理観をもってグローバルに活躍できる人材の育成をめざしている。そのため、生物科学ばかりでなく、数学、物理学、化学の基礎を確実に身につけさせ、知識の土台作りを行った後、幅広い知識と深い専門性の修得のため専門教育科目を教育する。また、国際社会でコミュニケーションを図るために必要不可欠な英語力の向上のため、英語教育にも力を入れる。以上の人材養成の目的に沿って、生物科学科では以下のような学生を求める。 5. 生物科学科の各専攻分野と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、各専攻分野の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする学生 6. 生物学に加え、数学、物理学、化学の体系的・構造的な理解に基づき、各専攻につ

いての知識や技能を多角的な視点をもって修得しようとする学生

7. 自然科学に関する基礎知識や技能、また日本語及び英語の基礎学力を基に、コミュニケーション能力、論理的思考力、情報収集力、表現力の向上に努める学生
8. 各専攻分野において現代社会における課題を見出し、健全な倫理観をもって課題を解決する能力を身につけようとする学生

生命医科学科

生命医科学科は、生命科学の確固たる知識に加え、基礎医学、薬学、医工学分野やデータサイエンスに関連した知識を兼ね備え、健全な倫理観をもってヒトの健康に関わる基礎医学系分野で活躍し、ライフイノベーションに資する人材を育成することを使命としている。生命科学を基礎医学系分野に応用するためには、まず生命科学の知識を確実に修得した上で基礎医学系分野の知識も兼ね備えている必要がある。生命科学の確実な知識を修得するためには、その基礎となる数学や物理学、化学をはじめとする基礎科目の知識を身につけている必要がある。また、医工学や医学系情報学分野の知識も養い、実験系分野で得られた成果を基礎医学系分野に効率的に応用できる人材の養成をめざす。さらに、ヒトの健康維持や疾病の治療に関わる分野で活躍する人材は、生命に関する健全な倫理観をもっている必要がある。以上の人材養成の目的に沿って、生命医科学科では以下のような学生を求める。

5. 生命科学を生命医科学科の各専攻分野に応用し、ヒトの健康の維持や疾病の治療等、ライフイノベーションに貢献しようとする学生
6. 数学や物理学、化学等、基礎科目も含め、生命科学及び各専攻分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
7. 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点と生命に関する健全な倫理観を意欲的に身につけようとする学生
8. 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

環境応用化学科

環境応用化学科は、地球環境問題に関連する多様な課題に化学的な視点から柔軟に取り組み、国際的に活躍できる人材を養成することを使命としている。そのため、自然科学の基礎を身につけて知識の土台作りを行った後、幅広い知識と深い専門性を修得できる教育研究の実践が必要である。特に、原子・分子レベルから地球スケールまでの広範な対象を取扱う環境応用化学分野の理解には、化学ばかりでなく数学、物理学、地学等の基礎知識の修得も必要となる。以上の人材養成の目的に沿って、環境応用化学科では以下のような学生を求める。

5. 物質と人間生活や地球環境との関わりに幅広い関心を抱き、化学的な視点からグリーンイノベーションに代表される地球環境問題の解決に貢献しようとする学生
6. 自然科学の基礎学力を十分に有し、地球環境化学・応用化学分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
7. 修得した専門的知識・技能を応用に発展させる柔軟な思考力と知識を養い、新しい課題に取り組むことのできる能力と、成果を発信するコミュニケーション能力の修得に努めようとする学生
8. 科学技術と地球環境との調和を重視した高い倫理観をもった学生

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kwansei.ac.jp/about/disclosure/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	8 人	－					8 人
神学部	－	6 人	4 人	1 人	2 人	0 人	13 人
文学部	－	63 人	6 人	0 人	2 人	0 人	71 人
社会学部		37 人	9 人	0 人	5 人	0 人	51 人
法学部		48 人	5 人	0 人	2 人	0 人	55 人
経済学部		40 人	11 人	7 人	0 人	0 人	58 人
商学部		31 人	11 人	4 人	5 人	0 人	51 人
総合政策学部		32 人	9 人	12 人	1 人	0 人	54 人
人間福祉学部		28 人	8 人	2 人	5 人	0 人	43 人
教育学部		24 人	12 人	0 人	4 人	0 人	40 人
国際学部		25 人	4 人	15 人	0 人	0 人	44 人
理学部		25 人	7 人	5 人	5 人	0 人	42 人
工学部		33 人	5 人	7 人	0 人	0 人	45 人
生命環境学部		24 人	3 人	10 人	15 人	0 人	52 人
建築学部		10 人	5 人	2 人	0 人	0 人	17 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
		1718 人					1718 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/about/disclosure/teachers.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
神学部	30人	31人	103.3%	120人	138人	115.0%	0人	0人
文学部	770人	757人	98.3%	3080人	3272人	106.2%	0人	0人
社会学部	650人	672人	103.4%	2600人	2753人	105.9%	0人	0人
法学部	680人	704人	103.5%	2720人	2891人	106.3%	0人	0人
経済学部	680人	649人	95.4%	2720人	2931人	107.8%	0人	0人
商学部	650人	660人	101.5%	2600人	2815人	108.3%	0人	0人
理工学部	人	人	%	0人	31人	0%	0人	0人
総合政策学部	495人	503人	101.6%	1980人	2117人	106.9%	0人	0人

人間福祉学部	300 人	308 人	102.7%	1200 人	1290 人	107.5%	0 人	0 人
教育学部	350 人	315 人	90.0%	1410 人	1463 人	103.8%	5 人	5 人
国際学部	300 人	291 人	97.0%	1200 人	1255 人	104.6%	0 人	0 人
理学部	180 人	186 人	103.3%	720 人	796 人	110.6%	0 人	0 人
工学部	265 人	248 人	93.6%	1060 人	1131 人	106.7%	0 人	0 人
生命環境学部	228 人	223 人	97.8%	912 人	979 人	107.3%	0 人	0 人
建築学部	132 人	118 人	89.4%	528 人	561 人	106.3%	0 人	0 人
合計	5710 人	5665 人	99.2%	22850 人	24423 人	106.9%	5 人	5 人
(備考) 理工学部は令和3年度より募集停止。理工学部の在学生は、全員留年生。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
神学部	26 人 (100%)	4 人 (15.4%)	21 人 (80.8%)	1 人 (3.8%)
文学部	798 人 (100%)	58 人 (7.3%)	683 人 (85.6%)	57 人 (7.1%)
社会学部	661 人 (100%)	17 人 (2.6%)	624 人 (94.4%)	20 人 (3.0%)
法学部	713 人 (100%)	78 人 (10.9%)	594 人 (83.3%)	41 人 (5.8%)
経済学部	649 人 (100%)	20 人 (3.1%)	598 人 (92.1%)	31 人 (4.8%)
商学部	656 人 (100%)	36 人 (5.5%)	593 人 (90.4%)	27 人 (4.1%)
理工学部	30 人 (100%)	2 人 (6.7%)	26 人 (86.6%)	2 人 (6.7%)
総合政策学部	509 人 (100%)	25 人 (4.9%)	456 人 (89.6%)	28 人 (5.5%)
人間福祉学部	310 人 (100%)	7 人 (2.2%)	287 人 (92.6%)	16 人 (5.2%)
教育学部	356 人 (100%)	10 人 (2.8%)	330 人 (92.7%)	16 人 (4.5%)
国際学部	306 人 (100%)	16 人 (5.2%)	263 人 (86.0%)	27 人 (8.8%)
理学部	157 人 (100%)	78 人 (49.7%)	77 人 (49.0%)	2 人 (1.3%)
工学部	251 人 (100%)	133 人 (53.0%)	114 人 (45.4%)	4 人 (1.6%)
生命環境学部	221 人 (100%)	128 人 (57.9%)	87 人 (39.4%)	6 人 (2.7%)
建築学部	152 人 (100%)	86 人 (56.6%)	61 人 (40.1%)	5 人 (3.3%)
合計	5795 人 (100%)	698 人 (12.0%)	4814 人 (83.1%)	283 人 (4.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) ・前年 11 月頃から授業担当者にシラバス作成を依頼している。依頼に当たり、授業の魅力を分かり易く伝えるための書き方が記載された「シラバス作成の手引き」を全学的に配布している。 ・開講時期に関わらず、すべての科目のシラバスを、開講前年度の 3 月 2 日に公開しており、Web 上からアクセスすれば、誰でも閲覧することができる。 ・シラバスには、授業形態、授業目的、到達目標、授業の概要・背景、授業方法、成績評価方法、授業計画、授業時間外学習の内容等が含まれており、授業形態、授業目的、到達目標、成績評価方法は日英併記となっている。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) ・成績評価項目は、「定期試験」、「定期試験に代わるレポート」、「授業中試験」、「平常レポート」、「論文」、「授業外学修課題」、「プレゼンテーション・発表」、「実技・実験」、「授業への参加度（自発性、積極性、主体性、等）」「その他」から選択式となっており、「その他」を選択した場合は、詳細の記入が必須となっている。また、成績評価項目は入力必須項目となっており、シラバス公開時に必ず設定されている。 ・成績評価方法については、学期開始約 1 ヶ月以降は追加・修正しないよう教員にアナウンスしており、シラバスの成績評価方法欄は編集できないようロックをかけている。 ・学修成果を厳格かつ適正に評価するために、「成績調査依頼期間」を設けており、学生は成績評価に疑義がある場合は、授業担当者に照会することができる。 (卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること) ・すべての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身に付けるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学の教育に通底するものとして位置づけている。 ・学部ごとの特色に応じたディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を定め、公表している。また、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーを定め、学部の教育目標を達成するための教育課程を編成している。 ・卒業の要件について、各学部の履修心得・教育課程表に記載し、学生に周知している。 ・授業期間および定期試験期間終了後から、成績発表・成績調査依頼期間を経て、卒業者発表までのスケジュールについて、各学部の履修心得等で学生に周知している。
--

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
神学部	—	124 単位	有・無	24 単位
文学部	文化歴史学科	124 単位		第 1 学年：22 単位 第 2 学年以降：24 単位
	総合心理科学科			
	文学言語学科			
社会学部	社会学科	124 単位		第 1 学年：24 単位 第 2 学年以降：22 単位
法学部	法律学科	124 単位		24 単位
	政治学科			
経済学部	—	124 単位		24 単位
商学部	—	124 単位		24 単位
理工学部	物理学科	128 単位		23～25 単位 ※学科や学年により異なる
	化学科			
	生命科学科			
	情報科学科			
	数理科学科			
	人間システム工学科			
	先進エネルギーナノ工学科			
	環境・応用化学科			
	生命医化学科			
総合政策学部	総合政策学科	128 単位		24 単位
	メディア情報学科			
	国際政策学科			
	都市政策学科			
人間福祉学部	社会福祉学科	124 単位		24 単位
	社会起業学科			
	人間科学科			
教育学部	教育学科	124 単位	24 単位	
国際学部	国際学科	124 単位	24 単位	
理学部	数理科学科	128 単位	春学期 25 単位 秋学期 24 単位	
	物理・宇宙学科		第 1 学年： 春学期 25 単位 秋学期 24 単位 第 2 学年以降： 春学期 24 単位 秋学期 25 単位	
	化学科		春学期 25 単位 秋学期 24 単位	
工学部	物質工学課程	128 単位	第 1・3・4 学年： 春学期 25 単位 秋学期 24 単位 第 2 学年：	

				春学期 24 単位 秋学期 25 単位
	電気電子応用工学課程			第 1・3・4 学年： 春学期 25 単位 秋学期 24 単位 第 2 学年： 春学期 24 単位 秋学期 25 単位
	情報工学課程			春学期 25 単位 秋学期 24 単位
	知能・機械工学課程			春学期 24 単位 秋学期 25 単位
生命環境学部	生物科学科	128 単位		春学期 25 単位 秋学期 24 単位
	生命医科学科			
	環境応用化学科			
建築学部	建築学科	128 単位		春学期 25 単位 秋学期 24 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法： ・履修心得（年度開始前に全学生に配布される冊子） ・大学ポータルサイト（要ログイン）		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kwansei.ac.jp/about/disclosure/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要)
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要)
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要)

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F128310108847
学校名 (〇〇大学 等)	関西学院大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 関西学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		4,350人（2,778）人	4,313人（2,734）人	4,547人（2,924）人
内 訳	第Ⅰ区分	1,151人	1,113人	
	(うち多子世帯)	(230人)	(177人)	
	第Ⅱ区分	433人	426人	
	(うち多子世帯)	(82人)	(81人)	
	第Ⅲ区分	278人	270人	
	(うち多子世帯)	(74人)	(64人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	96人	92人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	396人	343人	
	区分外（多子世帯）	1,996人	2,069人	
家計急変による 支援対象者（年間）				25人（－）人
合計（年間）				4,595人（－）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	15人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	21人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	46人	人	人
計	81人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	- 人	前半期	人 後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	-人
年間計	-人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	-人
訓告	0人
年間計	-人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	76人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	15人	人	人
GPA等が下位4分の1	633人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	633人	人	人
i			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。